OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	どのような人が結婚・出産を決意するのか? : アンケート調査の結果
Author(s)	筒井, 義郎; 亀坂, 安紀子; Movshuk, Oleksandr 他
Citation	大阪大学経済学. 2013, 63(3), p. 1-38
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57063
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

どのような人が結婚・出産を決意するのか？：

アンケート調査の結果*

筒 井 義 郎§・亀 坂 安紀子†

Oleksandr Movshuk‡・白 石 小百合‡

要　約

本稿は，結婚・出産予定の男女を対象とするアンケート調査に基づき，彼らにどのような特徴があるかを調べた。①生活満足度や幸福度については，結婚予定者はコントロール群（未婚 かつ結婚を予定していない人）に比べて高く，出産予定者も，コントロール群（既婚かつ妊娠していない人）と比べて高い傾向が認められる。②結婚予定者については，男性はフルタイムで働いている人が圧倒的に多く，結婚によってもそれは変わらない。女性は73%がフルタイムで働いているが，その比率は結婚によってほとんど変化しない。③結婚予定者は，コントロール群に比べて，パートナーの性格に対して好意的な評価を示すことが多い。出産予定者については，コントロール群と比べて，明確な違いはない。④結婚・出産予定者は，コントロール群と比べて，ストレスを感じておらず，憂鬱度も低い。また，結婚予定者はコントロール群と比べて，孤独を感じることが少ない（これは出産予定者には当てはまらない）。⑤体型については似た者がカップルになる傾向がある。⑥女性の年齢が低いほど，男性の年収が高いほど，出産を経験する傾向がある。男性の年齢が低いほど，男性の学歴が高いほど，男性の年収が高いほど，また，一致した趣味を持つほど，結婚する傾向がある，などの事実が明らかになった。

JEL分類番号：I31

キーワード：結婚，出産，幸福度，アンケート調査，日本

* 本稿の作成に際して，中井美恵氏（筒井研究室）にデータ整理で大変お世話になった。また，河野志穂氏（内閣府経済社会総合研究所）および賀茂美則氏（ルイジアナ州立大学）から貴重なコメントを頂いた。記して感謝申し上げたい。この研究は科学研究費基盤A「幸福の経済学と政策評価：パラドックスの解明を目指して」（課題番号23243052）から資金援助を受けている。

§ 大阪大学大学院経済学研究科教授
〒560-0043　大阪府豊中市待兼山町1-7，電話 06-6850-5223，Fax 06-6850-5274，メール tsutsui@econ.osaka-u.ac.jp

† 青山学院大学経営学部教授
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25，電話 03-3409-6269，Fax 03-3797-6870，メール akiko@busi.aoyama.ac.jp

‡ 富山大学経済学部教授
〒930-8555 富山市五福3190，電話 076-445-6428，FAX 076-445-6419，メール movshuk@eco.u-toyama.ac.jp

‡ 横浜市立大学国際マネジメント研究科教授
〒236-0027　横浜市金沢区瀬戸22-2，電話 045-787-2138，Fax 045-787-2413，メール shira@yokohama-cu.ac.jp

1. はじめに

結婚と出産は，男性・女性を問わず，人生にとっての主要な事件（イベント）である。したがって，結婚と出産が人々の幸福度にどのような影響を与えるかは，これまで多くの研究で取り上げられてきた。

まず，多くの研究が，既婚者と未婚者，子供を持つ人と持たない人を比較して，①既婚者は未婚者よりも幸福である（Tsang et al.（2003），Glenn and Weaver（1981），Holland-Benin and Cable-Nenstedt（1985），大竹（2004）），②子供を持つ人は持たない人より幸福度が低い，ことを明らかにした（Twenge et al. 2003）。[1] 続いて，長期のパネル調査結果を用いて，結婚と出産の前後で，幸福度がどのように変化するかが調べられた。その結果，③結婚については，結婚の年を頂点に幸福度が高まるが，数年のちには低下していくことが明らかになった（Frey and Stutzer 2005, Stutzer and Frey 2006）。[2] ④結婚後，完全に元の幸福度にまで戻るのか否か（順応が完全か）については，論争がある（Lucas, et al. 2003, Easterlin 2003, Lucas and Clark 2006, Zimmermann and Easterlin 2006, Clark et al. 2008, Clark and Georgellis 2013, Angeles 2010）。⑤出産については，幸福度の変化のありかたにはいろいろなパターンがあるが，幸福度が低下すると報告するものが多い（Clark et al. 2008, Doss et al. 2009, Clark and Georgellis 2013）。[3] これは，出産が多大の金銭的費用を要し，さらに，過大な育児労働を課すからであると想像される（Lawson 1998）。[4] ただし，Aassve et al.（2012）はヨーロッパ19ヵ国を分析し，国によって影響は多様であるが，どれも穏やかな影響であると報告している。[5] 色川（1999）は，日本の女性は，結婚の前年から幸福度が上昇し結婚4年目には低下する一方，出産時には生活満足度の明確な変化の方向が見えないことから，少なくとも出産は満足度を高めないと結論付けている。これに対し，樋口・萩原（2011）は日本においては，第1子出産によって，女性の幸福度はむしろ向上すると報告している。[6]

これらの研究のほとんどが年次のパネルデータを利用している。これに対し，われわれは，幸福度のより短期的な変化を見るために，月次のパネル調査を実施することにした。この調査は，科学研究費「幸福の経済学と政策評価：パラドックスの解明を目指して」（課題番号23243052）によって，2012年3月より，およそ3年間実施する予定である。この調査に先立って，回答者の安定的属性や選好について，クロスセクションデータを収集するアンケートが実施された（以下「詳細調査」と呼ぶ）。本稿は，この「詳細調査」の結果に基づいて，日本の結婚・出産予定者の状況や選好を明らかにすることを目的とする。

クロスセクションデータを使用して，生活満足度や幸福度などの主観的変数を分析することについては，これまでに様々な問題点が指摘されてきた。このため，われわれはパネルデータを構築して，主観的変数の個人間比較の問題を考慮した分析を今後行う予定である。[7] 本稿

---

1 ただし，子供の影響は，結婚に比べると小さく，明確な影響がないとの結果も報告されている（Kohler et al. 2005, 筒井他 2009）。

2 Clark et al.（2008）は離婚や死別の影響についても分析し，幸福度の低下のありかたを明らかにしている。

3 Parr（2010）は，幸福な人が子供を持つという逆の因果関係があることを報告している。

4 坂口（2004）によると，女性の家事育児労働時間は子供が生まれる前は週18時間37分であったのが，出産後は週61時間29分に増えている。

5 Yap et al.（2012）は，人々が，結婚を含む人生上のいろいろな事件にどのように順応していくかを調べ，結婚については，結婚が生活満足感に与えるインパクトは性格の違いによらないことを示した。このことは，結婚後の順応過程が何か別の原因によっていることを示唆している。

6 樋口・深堀（2013）は，幸福度が高いと第1子出産が促進されるという，逆の因果関係があることを報告している。

7 パネルデータを構築して，固定効果モデルを推定することにより，個人間比較の問題を部分的に回避す

の 3.1 節と 3.2 節では，生活満足度や幸福度といった主観的変数，3.6 節では，自分やパートナーの性格の評価であるビッグファイブの集計結果などを示しているが，これらの主観的変数に関する厳密な分析は，パネルデータが十分蓄積された段階で進める。本稿は，パネルデータの構築・分析に先立ち「詳細調査」の結果を報告することを目的としている。

2. アンケート調査

われわれのアンケート調査は，2012 年 2 月下旬に，結婚予定者・出産予定者を抽出するスクリーニング調査で始まった。これは，調査会社インテージの回答プールから，5 万人を抽出し，結婚予定ないしは出産予定があるかないかを尋ねるものである。ただし，結婚については初婚，出産については初産の予定者に限定している。抽出されたサンプルを用いて，結婚及び出産予定者として，男性 150 人，女性 150 人，また，これらの回答者と比較するためのコントロール群として，結婚及び出産それぞれ男性 50 人，女性 50 人を対象に毎月の調査を行うこととした。結婚のコントロール群は，未婚で結婚予定のない者であり，パートナーがいるかどうかには制限をつけていない。出産のコントロール群は既婚者であるが，子供がなく，現在，本人もしくは配偶者が妊娠していない者である。第 1 回の月次調査（「本調査」）は 2012 年 3 月上旬に実施した。

初回の本調査の直後の 2012 年 3 月中旬に，43 問からなるクロスセクション調査（詳細調査）を実施した。アンケート送付数は，結婚・出産を合わせて 938，有効回答数は 814（有効回答率 86.8 %）であった。有効回答の内訳は，結婚予定者は男性 139 名，女性 156 名，コントロール群はそれぞれ 56 名，57 名，出産予定者は男性 152 名，女性 157 名，コントロール群はそれぞれ 48 名，49 名である。詳細調査の質問は，生活満足度，パートナーに関する評価，趣味，性格や価値観（意見），結婚や出産に関する評価（幸福感や不安感），属性などである。質問票は，付録に収録されている。

3 月上旬には，主として，幸福感と 1 か月に起きたイベントについて尋ねる月次調査（「本調査」）を開始した。1 年経過した 2013 年 2 月には，脱落したサンプルを補うために，再びスクリーニング調査を行い，新規の回答者を追加するとともに，これらの人々を対象に詳細調査を実施した。結婚予定者は男性 130 名，女性 145 名，コントロール群はそれぞれ 91 名，84 名，出産予定者は男性 125 名，女性 127 名，コントロール群はそれぞれ 51 名，56 名である。[8] 本稿では，2012 年と 2013 年におこなった詳細調査の回答をプールして分析する。サンプル数は，結婚予定者は男性 269 名，女性 301 名，コントロール群はそれぞれ 147 名，141 名（このうち，パートナーがいる人は，男性 36 名，女性 40 名），出産予定者は男性 277 名，女性 284 名，コントロール群はそれぞれ 99 名，105 名である。

3. アンケート調査の分析結果

3.1　生活満足度

既婚者は未婚者よりも幸福であるということが，多くの国で報告されている。一方，出産はむしろ幸福度を下げることが多くの国で観察されているが，日本はその例外であると言われている。これらの事実が，われわれの調査対象者で確認されるであろうか。

詳細調査では，さまざまな事柄に関する満足

ることが可能である。

[8] 2013 年の詳細調査対象者には，2012 年度調査の途中で，脱落者を補充したサンプルも含まれている。彼らには，2012 年 2 月時点では詳細調査を実施していなかった。

度を，「1=とても不満足」から「5=とても満足」の５段階で尋ねている。その中の生活全般に関する満足度の結果を見てみよう。図１には，①結婚予定の男性，②結婚予定の女性，③結婚予定のない男性，④結婚予定のない女性，⑤出産予定の男性，⑥出産予定の女性，⑦出産予定のない男性，⑧出産予定のない女性，の８つのグループについて，１から５の満足度を回答した割合を表示している。結婚予定者を見ると，結婚予定のない人（コントロール群）と比べて，男性・女性ともに「5=とても満足」と答えた人が多いことが見て取れる。「5=とても満足」と「4=少し満足」を合計した数についても，同様である。この合計で見ると，結婚予定者は約 50 %であるのに対し，コントロール群は約 30%にとどまる。一方，男性と女性を比べると，結婚予定者もコントロール群も，女性の満足度の方が高い。

出産予定者についてはどうであろうか。男性については，出産予定者はコントロール群に比べて，若干満足度が高い。しかし，その差は結婚予定者の場合に比べると格段に小さい。女性の場合も，出産予定者の方がコントロール群より若干満足度が高いが，その差はわずかで，ほとんど変わらないともいえる。また，出産予定者の場合にも，出産予定者とコントロール群の両方において，女性の方が男性より満足度が高い。

最後に，結婚に関するサンプルと出産に関するサンプルを比較すると，後者の満足度の方が高い。これは，出産調査の対象者は，出産予定者もコントロール群も，ともに既婚者であるからであろう。これに対し，結婚調査の対象者は，コントロール群は結婚の予定がない人，結婚予定者はこれから結婚する人であり，どちらも未婚者に分類される。したがって，出産調査のサンプルの方が結婚調査のサンプルより満足度が高いという結果は，既婚者が未婚者より幸福である（あるいは生活満足度が高い）という，これまでの多くの研究結果と整合的である。

詳細調査では，「日頃の生活の中で充実感を感じている」ということばに当てはまるかどう

図１　結婚予定者，出産予定者の生活満足度

Q26　あなたは，生活面に関する以下のことについて，どれくらい満足していますか。生活全般

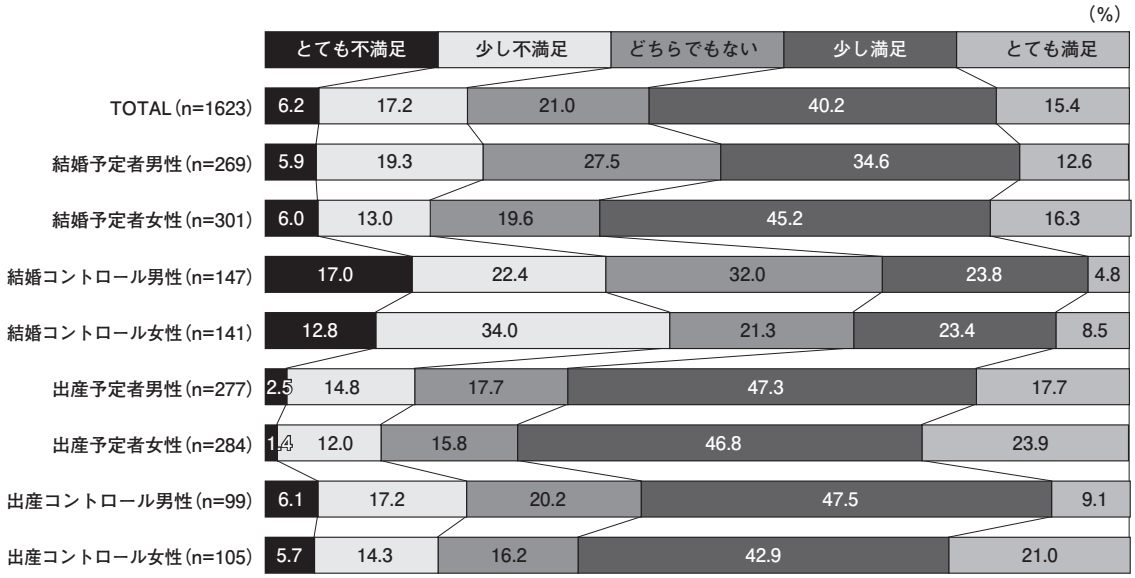
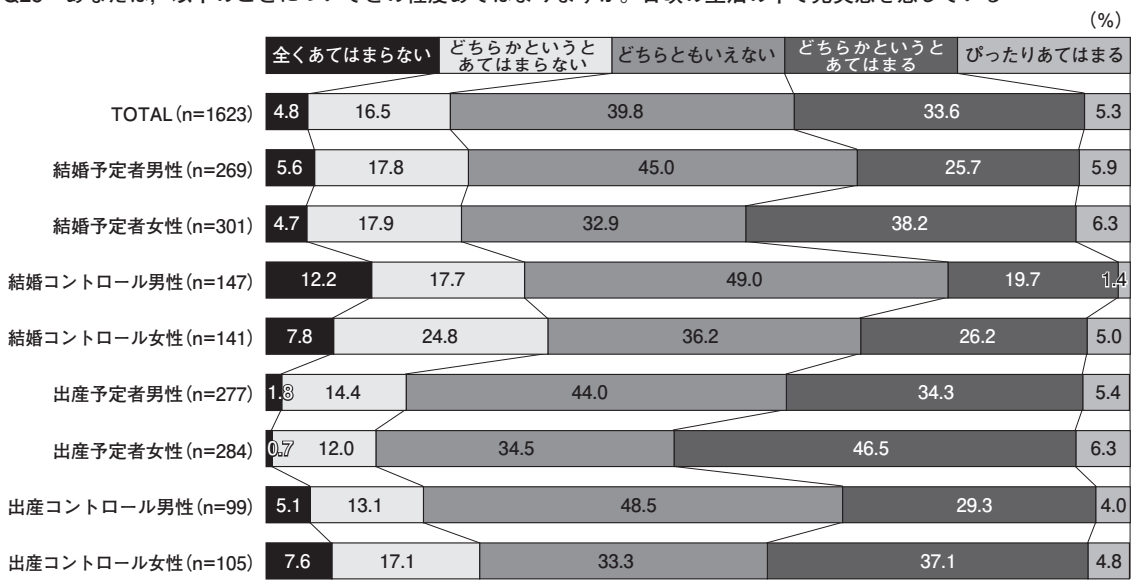


図 2　結婚予定者，出産予定者の生活充実感

Q25　あなたは，以下のことについてどの程度あてはまりますか。日頃の生活の中で充実感を感じている

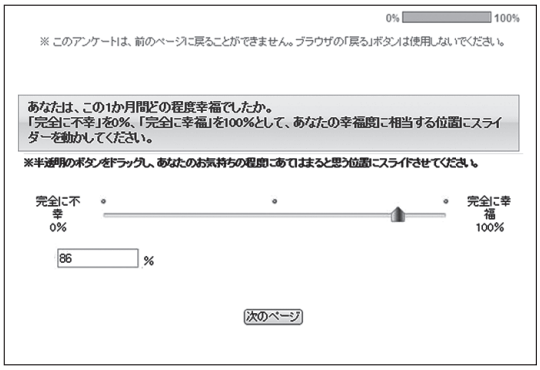


かを，「1=全く当てはまらない」から「5=ぴったり当てはまる」の 5 段階で訊いている。この結果を示した図 2 を見ると，「生活満足度」で確認された 4 つの結果がここでも確認されることが分かる。すなわち，①結婚予定者はコントロール群より充実感が高い，②出産予定者はコントロール群より若干充実感が高いものの，その差は結婚調査より小さい，③すべてのケースで女性の方が男性より充実感が高い，④すべてのケースにおいて出産のサンプルのほうが結婚のサンプルより充実感が高い。

最後に，3 月のはじめに同じサンプルを対象に実施した「本調査」において幸福度を尋ねているので，それによっても同様の結果がみられるかどうかを確認しておこう。ただし，ここでは，2012 年 3 月に詳細調査とほぼ同じ時期に実施したアンケートの結果だけを見る。[9]

質問は：*あなたは，この 1 か月間どの程度幸福でしたか。「完全に不幸」を 0 %，「完全に幸福」を 100 %として，あなたの幸福度に相当する位置にスライダーを動かしてください*
であり，回答者は図 3 に示した画面でスライダーを動かして回答する。回答は 0 から 100 までの整数でコードされ，画面に表示される。[10]

図 3　スライダー画面

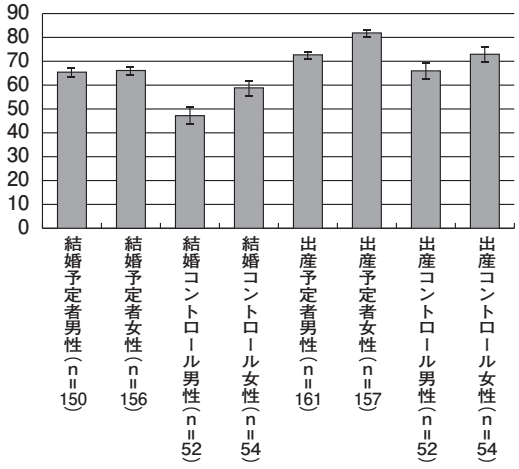


結婚・出産予定者とそれぞれのコントロール

[9] 2013 年の詳細調査は 4 月に行っており，2013 年 4 月の本調査と比較することが考えられるが，この本調査には，すでに結婚や出産を経験した回答者が多数含まれているので，このデータを含めると異質なサンプルを比較することになる。したがって，2012 年 3 月のサンプルのみを対象とした。

[10] この問いについては，一度選択すると確認画面が現れ，訂正することができる。

図 4　結婚予定者，出産予定者の幸福度



注：各縦棒は平均値を表し，その上端についている縦線は，平均値の正負の 1 標準誤差を表す。

群を男女別にした 8 つのグループについて，この回答の平均値と標準誤差を示したのが，図 4 である。この図からも，前述の 2 つのデータを使った分析と同じく，4 つの結果を確認することができる。すなわち，「この 1 か月間の幸福度」についても，①結婚予定者はコントロール群より幸福感が高い，②出産予定者はコントロール群より若干幸福感が高いものの，その差は結婚調査より小さい，③すべてのケースで女性の方が男性より幸福度が高い，④すべてのケースにおいて出産のサンプルのほうが結婚のサンプルより幸福度が高い。

この結果を統計的に検証するために，男性・女性，非コントロールとコントロール群，結婚・出産の 3 元の分散分析をしてみた。表 1-1 にその結果が示されている。3 つの元の交差項はいずれも 5%で有意でないが，男性・女性，非コントロールとコントロール群，結婚・出産はいずれも，0.01 %水準で有意に異なることが分かる。

ただし，この分析においては，結婚と出産のサンプルはコントロール群を含んでいる。コントロール群を含まない結婚予定者と出産予定者だけをサンプルとして取り出して（n=624），男性・女性と結婚・出産の 2 元分散分析をした結果が，表 1-2 である。この結果を見ても，結婚予定者と出産予定者の幸福度は 0.01%水準で異なることが見て取れる。男女差もやはり

表 1-2　幸福度の 2 元分散分析

	F 値	P 値
モデル	17.91	<0.0001
主効果		
男・女	7.52	0.0063
結婚・出産	40.84	<0.0001
交差項		
（男・女）×（結婚・出産）	5.57	0.0186
観測数		624

表 1-1　幸福度の 3 元分散分析

	F 値	P 値
モデル	16.75	<0.0001
主効果		
男・女	14.93	0.0001
結婚・出産	57.43	<0.0001
予定者・コントロール	31.17	<0.0001
交差項		
（男・女）×（予定者・コントロール）	1.41	0.2357
（男・女）×（結婚・出産）	0.27	0.6066
（予定者・コントロール）×（結婚・出産）	1.79	0.1809
（男・女）×（予定者・コントロール）×（結婚・出産）	3.20	0.0740
観測数		836

1％水準で存在が確認される。

3種類の，似てはいるが若干異なるデータで同じ結果が確認されたことは，この結論が頑健であることを示している。

3.2　結婚・出産に対する期待

結婚予定者や出産予定者は，結婚・出産をどのように期待しているのであろうか。この点を明らかにするため，それぞれのサンプル（コントロール群を除く）に対して，今回結婚や出産をすることによって「どのくらい幸せになると思うか」と「どのくらい不安があるか」を尋ねた。具体的な質問は次の4つである。

結婚予定者に対して：

①あなたは結婚することによって今よりどのくらい幸せになると思いますか。「大変不幸になる」を0点，「変わらない」を50点，「大変幸福になる」を100点として，あなたの幸福度は何点ぐらい変化すると思いますか。棒の上で，相当する点をクリックしてください。

②あなたは今回の結婚に関して不安がありますか。「まったくない」を0％，「非常に不安がある」を100％として，あなたの不安度に相当する割合を棒の上でクリックしてください。

出産予定者に対して：

③あなたは今回子どもが生まれることによって今よりどのくらい幸せになると思いますか。「非常に不幸になる」を0点，「変わらない」を50点，「非常に幸福になる」を100点として，あなたの幸福度は何点ぐらい変化すると思いますか。棒の上で，相当する点をクリックしてください。

④あなたは今回子どもが生まれることに関して不安がありますか。「まったくない」を0％，「非常に不安がある」を100％として，あなたの不安度に相当する割合を棒の上でクリックしてください。

回答者は図3と同じような画面のスライダーを動かし，その長さで回答を表示する。回答は0から100の整数でコードされる。

表2　結婚や出産によって幸福や不安になる程度

	幸福になる	不安
結婚・男性	75.81	46.30
結婚・女性	78.73	49.49
総計	77.35	47.98
出産・男性	86.89	52.68
出産・女性	87.45	58.82
総計	87.17	55.79

回答の平均値は表2に示されている。結婚することによって今よりどれくらい幸せになると思うかという質問に対しては，男性の平均が75.81，女性の平均が78.73で，女性の方が若干幸せになる程度が大きかった。一方で，結婚に関して不安があるかという質問に対しては，男性の回答の平均は46.30，女性の平均は49.49であり，この値も女性の方が若干高かった。

出産によってどれくらい幸せになると思うかという質問に対しては，男性の平均が86.89，女性の平均が87.45で，女性の方が高かった。一方で，出産に関して不安があるかという質問に対しては，男性の回答の平均は52.68，女性の平均は58.82であり，やはり女性の方が高い。すなわち，結婚・出産，幸福度・不安度のどの組み合わせについても，女性の方が高い値を報告している。

また，結婚と出産を比較すると，すべてのケースにおいて出産のほうが大きな値をとっている。すなわち，男女を問わず，出産のほうが結婚より大きな幸福をもたらすと予想し，かつ，不安も大きいと予想している。この結果は，結婚よりも（第1子）出産のほうが，より幸福度を高めるイベントであることを示唆して

いる。さらに，すべてのケースにおいて，幸福感の上昇が大きいことと不安が大きいことが同時に生じていることが見て取れる。つまり，幸福度のマイナス指標（ここでは不安感）は必ずしも幸福度と逆相関するとは限らないことが分かり，両方の指標を別々に分析することの意義を示唆している。

3.3　子供の性別希望，子供を何人欲しいか

子供の性別希望

アンケートでは，出産予定者（男女）を対象に，「あなたは生まれてくるお子さんの性別に希望がありましたか」と尋ねている。この問いに対する回答結果を図5に示す。半数以上が「どちらでもよかった」と答えているが，男女ともに，「女の子を望んでいた」が「男の子を望んでいた」を大きく上回る。女の子を望む傾向は，女性の方が男性より強い。これらの結果は守泉（2008）の報告と整合的である。守泉（2008）は，出生動向基本調査を分析して，女の子を選ぶ人が多いのは，「現在多くの人が選ぶ子供を持つ理由（生活が楽しく豊かになる，老後の支えになるなどの子供の価値）と結びついているのが男児より女児であるため」であると考えている。

子供を何人欲しいか

出産予定者とそのコントロール群（既婚者で子供なし）を含む全サンプルに対して，子供を何人欲しいかを尋ねた。その結果が表3に示されている。

出産予定者とコントロール群を比較すると，前者の方が希望する子供数が多い。平均にして，0.6~0.7人の差である。出産予定者は圧倒的に（全体の2/3程度）2人を望んでいて，3人，1人がそれに続く。これに対し，コントロール群では，2人が最多である点は変わらないがそう回答する人は約4割程度であり，1/3弱が「欲しくない」（0人）と回答している。出産予定者で「欲しくない」と回答した人が1%以下（1人ないし2人）しかいないことは，出産予定者の多くは，子供を欲しいと思っていることを示している。

図5　子供の性別の希望

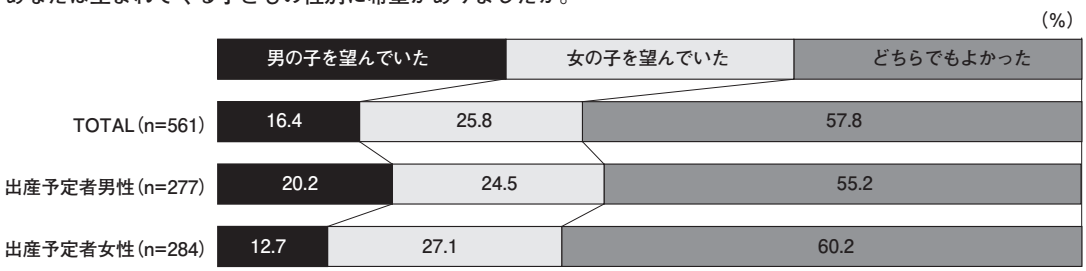


表3　子供を何人欲しいか

	欲しくない	1人	2人	3人	4人	5人以上	総計	平均（人）
出産・男性	0.4%	13.4%	65.0%	19.9%	0.7%	0.7%	277	2.09
出産・女性	0.7%	14.8%	63.4%	18.0%	2.1%	1.1%	284	2.09
コントロール・男性	32.3%	12.1%	38.4%	16.2%	0.0%	1.0%	99	1.42
コントロール・女性	29.5%	19.0%	43.8%	6.7%	0.0%	1.0%	105	1.31
総計	8.6%	14.5%	58.0%	16.9%	1.0%	0.9%	765	1.90

その人数の子供が欲しい理由

この質問に続いて，「その人数を希望するのはなぜですか。」と尋ね，以下の項目から，複数回答で選んでもらった。

1. 教育費など子育て費用がかかるから
2. 仕事や趣味との両立が難しいから
3. 子どもが嫌いだから
4. 家が狭いから
5. 育児が大変だから
6. 子育てに自信がないから
7. 健康上の理由
8. 子どもが好きだから
9. 賑やかな家庭が好きだから
10. 自分が一人っ子だったから
11. 自分の兄弟が多かったから
12. その他
13. どれも当てはまらない

表４　なぜその人数の子供を希望するか

欲しい人数	理　　由	出産・男性	出産・女性	コントロール・男性	コントロール・女性
0～1人	教育費など子育て費用がかかるから	71.1%	65.9%	43.2%	21.6%
(n=302)	仕事や趣味との両立が難しいから	18.4%	27.3%	20.5%	11.8%
	子どもが嫌いだから	2.6%	6.8%	11.4%	5.9%
	家が狭いから	18.4%	18.2%	9.1%	2.0%
	育児が大変だから	26.3%	31.8%	20.5%	9.8%
	子育てに自信がないから	21.1%	25.0%	20.5%	13.7%
	健康上の理由	0.0%	13.6%	6.8%	21.6%
	子どもが好きだから	0.0%	4.5%	4.5%	5.9%
	賑やかな家庭が好きだから	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%
	自分が一人っ子だったから	5.3%	4.5%	0.0%	0.0%
	自分の兄弟が多かったから	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%
	その他　　具体的に：	13.2%	15.9%	4.5%	13.7%
	この中にあてはまるものはない	10.5%	4.5%	20.5%	15.7%
2人	教育費など子育て費用がかかるから	37.8%	45.0%	34.2%	45.7%
(n=763)	仕事や趣味との両立が難しいから	6.1%	7.8%	10.5%	8.7%
	子どもが嫌いだから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	家が狭いから	7.2%	10.6%	7.9%	6.5%
	育児が大変だから	13.3%	13.9%	18.4%	19.6%
	子育てに自信がないから	1.1%	5.0%	2.6%	8.7%
	健康上の理由	0.6%	0.6%	2.6%	8.7%
	子どもが好きだから	28.9%	23.9%	36.8%	37.0%
	賑やかな家庭が好きだから	26.1%	27.2%	26.3%	28.3%
	自分が一人っ子だったから	10.6%	6.7%	0.0%	2.2%
	自分の兄弟が多かったから	14.4%	13.3%	13.2%	8.7%
	その他　　具体的に：	5.0%	9.4%	7.9%	10.9%
	この中にあてはまるものはない	11.7%	12.8%	13.2%	4.3%
3人以上	教育費など子育て費用がかかるから	10.2%	8.3%	0.0%	0.0%
(n=240)	仕事や趣味との両立が難しいから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	子どもが嫌いだから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	家が狭いから	1.7%	1.7%	5.9%	0.0%
	育児が大変だから	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	子育てに自信がないから	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	健康上の理由	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	子どもが好きだから	49.2%	35.0%	58.8%	50.0%
	賑やかな家庭が好きだから	62.7%	66.7%	70.6%	87.5%
	自分が一人っ子だったから	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	自分の兄弟が多かったから	30.5%	33.3%	29.4%	37.5%
	その他　　具体的に：	5.1%	5.0%	0.0%	25.0%
	この中にあてはまるものはない	6.8%	3.3%	11.8%	0.0%

希望する人数の多寡によって「その人数を希望する」理由の意味合いは異なるだろう。このことを考慮して，0 人か 1 人を希望するグループ（302 人），2 人を希望するグループ（763 人），3 人以上を希望するグループ（240 人）の 3 グループに分けて，それぞれの理由を選んだ割合を計算した（表 4）。ただし，出産予定の男性・女性，コントロール群の男性・女性のそれぞれについて，割合を表示している。

まず，0～1 人が欲しいというグループを見ると，その理由は圧倒的に「子育て費用」であることが分かる。出産予定者は 70 %前後の人がこの理由をあげている。しかし，出産予定のないコントロール群では，この理由をあげた人は男性で 43%であり，女性では 22 %でしかない。これに続いて重要な理由は，「仕事や趣味との両立が難しいから」，「育児が大変だから」，「子育てに自信がないから」である。また，「家が狭いから」も出産予定者の群では男性・女性とも 18%があげている。男性と女性を比較したとき，特徴的なのは，「健康上の理由」をあげる人が女性で多いことである。とくに，コントロール群の女性では 22 %にのぼっている。「子どもが嫌いだから」という回答は比較的少なく，子供を 0～1 人しか希望しない理由は，「子供を持ちたくない」というより，「子供を持てる環境にない」からであることが示唆される。少子化問題の観点からすると，育児費用が最大の問題であり，子ども手当・児童手当のような所得対策が必要であることが分かる。また，具体的な子育て支援体制の整備が必要とされる。

2 人の子供を希望するグループでも，その人数を希望する理由として最も多くの人があげたのは，「子育て費用」である。ただし，その割合は 30%～40%台に下がっている。その次に多い理由は「子どもが好きだから」，「賑やかな家庭が好きだから」であり，ともに 3 割前後の人があげている。これは，2 人を回答する人の多くが，この数を比較的多くの子供であると意識していることを示唆している。さらに，10%内外の人が，「自分の兄弟が多かったから」，「自分が一人っ子だったから」をあげ，一人っ子よりも兄弟がいることが良いと考えているようである。「育児が大変だから」も 10%以上の人があげる重要な理由である。しかし，このグループでは，0～1 人が欲しいというグループと違って，「子育てに自信がないから」という回答はほとんどない。

3 人以上を希望するグループでは，その人数を希望する理由として圧倒的に多いのが，「賑やかな家庭が好きだから」であり，どのサブグループでも 60 %を超えている。続いて，30 %以上の人が「子どもが好きだから」，「自分の兄弟が多かったから」をあげている。

表 5　欲しい子供の数とその理由の相関係数および回帰結果

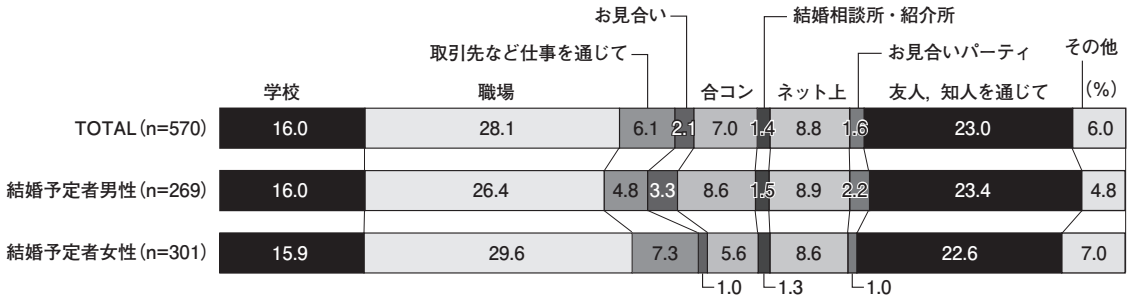
	単相関		最小二乗法	
	相関係数	p-値	係数	p-値
子育て費用	-0.239	0.000	-0.089	0.144
仕事との両立	-0.224	0.000	-0.268	0.006
子供が嫌い	-0.238	0.000	-0.823	0.000
家が狭い	-0.091	0.012	0.054	0.594
育児が大変	-0.177	0.000	0.061	0.483
子育てに自信がない	-0.299	0.000	-0.409	0.000
健康上の理由	-0.236	0.000	-0.654	0.000
子供が好き	0.327	0.000	0.333	0.000
にぎやかな家庭	0.459	0.000	0.592	0.000
自分が一人っ子	0.006	0.868	0.132	0.262
自分の兄弟が多い	0.285	0.000	0.437	0.000
定数			2.682	0.000
決定係数			0.362	
観測数	765		765	

注：単相関は「欲しい子供の数」との相関。回帰の従属変数は「欲しい子供の数」。

続いて，「欲しい子供の人数」とその理由との相関を計算した。その結果は表 5 の 2 列目に記載されている。「子育て費用がかかる」，「仕事との両立が難しい」，「子供が嫌い」，「子育て

図6　パートナーとどこで知り合ったか

Q10　今のパートナーとはどこで知り合いましたか。



に自信がない」，「健康上の理由」が大きな負の相関係数を示しており，また，「育児が大変」，「家が狭い」との相関係数も，若干小さいものの，負になっている。これに対し，「子供が好き」，「にぎやかな家庭が好き」，「自分の兄弟が多かった」は大きな正の相関係数を示している。これらの結果はすべて，直感と整合的である。「自分が一人っ子だった」は，有意な相関を示さない。

「欲しい子供の人数」をその理由に回帰した結果が表5の右端の列に示されている。ここでは，最小二乗法の結果を示しているが，順序ロジットやトービットモデルの推定でもほぼ同様の結果を得た。推定結果は単相関の結果をほぼ追認するものである。ただし，単相関が相対的に小さかった，「自分が一人っ子」，「家が狭い」，「育児が大変」，に加えて，「子育て費用がかかる」がここでは有意でなくなっている。[11]

3.4　結婚に関連した調査結果

アンケート調査では結婚に関連して，いくつかの質問をしている。本節ではこれらの結果を紹介する。

パートナーとどこで知り合ったか

「今のパートナーとはどこで知り合いましたか」という質問の回答が，図6に示されている。「職場（28%）」，「友人，知人（23%）」，「学校（16%）」などの場所が多くを占める。その一方で，「合コン」が7%，「ネット上」が9%もあるのは，これらが新しい交際の場として普及していることを示している。

結婚に対する両親の考え方

アンケートでは，自分の両親およびパートナーの両親が結婚に賛成か反対かを尋ねている。ここでは紙面を節約するため，自分の両親に関する回答を図7（父親），図8（母親）に示す。

男性・女性の合計では，結婚を予定している人の親の3割以上が子供の結婚に大賛成と回答しており，どちらかというと賛成という回答を加えると，全体として6割以上の親が結婚に賛成であると回答している。

結婚予定者の回答を男女別にみると，男性の両親の約4割が子供の結婚に大賛成である。これに対して，女性の両親の場合，子供の結婚に大賛成であると回答しているのは，約3割にとどまる。とりわけ女性の父親は，大賛成である割合が28％にとどまっていた。図には示していないが，女性のパートナー（つまり男性）の父親は，結婚に大賛成と答える人が34%にのぼる。実の娘の結婚は好ましくないが，息子が結婚して娘が増えることには好ましいと考えて

[11] 順序ロジット推定では，「子育て費用がかかる」は5%で有意に負である。

図７　あなたの父親は結婚に賛成でしたか？

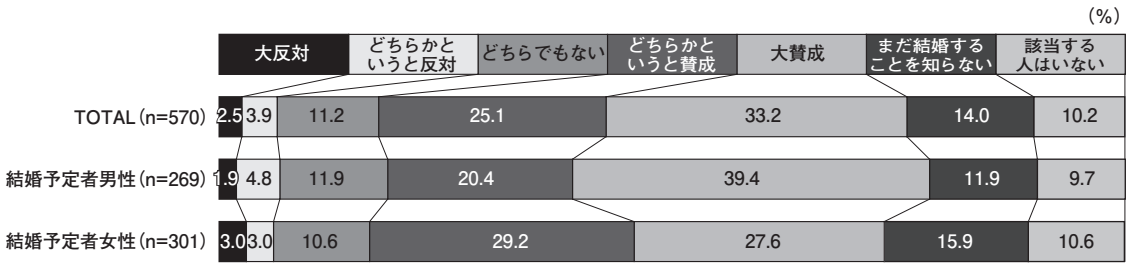
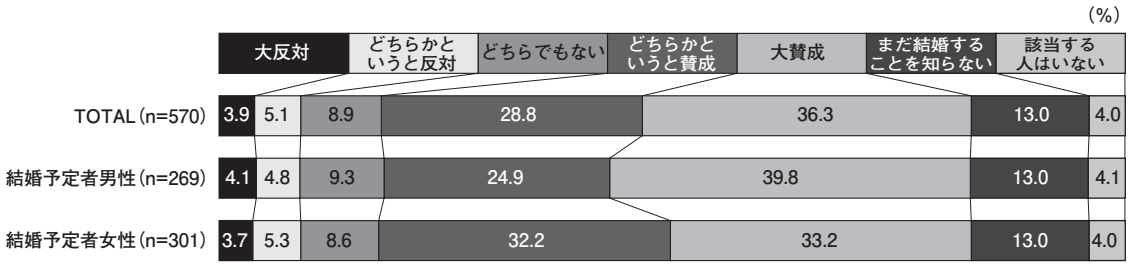


図８　あなたの母親は結婚に賛成でしたか？



いるとの解釈も可能である。

披露宴の予定

結婚披露宴については，37%が招待して行う予定と回答している。会費制で行うとしているのは約 3.5 %であった。24 %は，行わないと回答しており，残りの 34 %は未定と回答している。

結婚後の働き方

アンケート調査では，「現在あなたは週何時間程度勤務していますか」と尋ね，次に，「あなたの結婚後の働き方について，あてはまるものを一つ選んでください」とし，フルタイム（同じ会社），フルタイム（他社），パート（同じ会社），パート（他社），退職する，まだ決めていない，の５つの選択肢を提示している。この二つの質問から，結婚を機に働き方を変える人がどのくらいいるかを知ることができる。

まず，週 40 時間以上をフルタイム，0 時間を無職，それ以外をパートと定義した。[12] それぞれのカテゴリーが，結婚後どのように働く予定であるかを示したのが，表 6 である。現在（結婚前），フルタイムで働いている男性（229 人）の場合，同会社あるいは他社でフルタイムで働く予定，と答えた人が，96%にのぼった。パートタイムに移る，あるいは退社するは 1% 以下（それぞれ，2 人と 1 人）であった。また，パートタイムの男性は 32 名であるが，81%に当たる 26 名が，フルタイムで働く予定と回答している。男性にとって，フルタイムで働くことは結婚の条件であるかのようである。

これに対して，女性の約 60%（180 名）は，現在（結婚前）フルタイムで働いているが，結

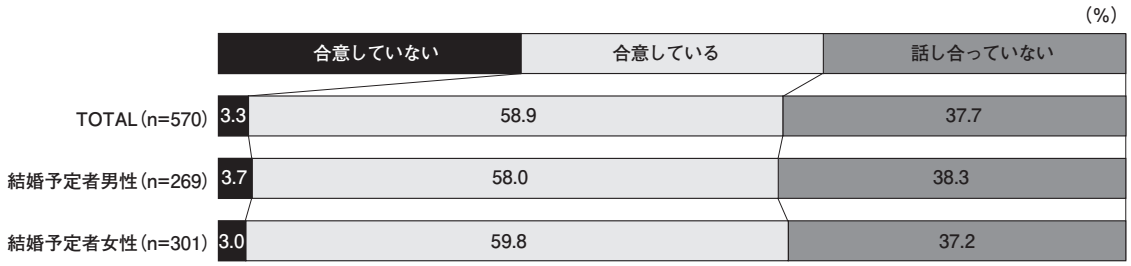
[12] ただし，勤務時間を 0 時間としているのに，次の質問で，「同じ会社でフルタイム」と回答した人が 6 人，「退社」と回答した人が 2 人いた。これらは，フルタイムで働いているが産休などで休暇をとっているものとみなして，「フルタイム」に分類した。

表 6　結婚後の働き方

現在の形態		フルタイム（同じ会社）	フルタイム（他社）	パートタイム（同じ会社）	パートタイム（他社）	退職	まだ決めていない	人数
		74.82	11.25	0.98	3.67	4.16	5.13	409
フルタイム	男性	87.34	9.17	0.87	0.00	0.44	2.18	229
	女性	58.89	13.89	1.11	8.33	8.89	8.89	180
		44.44	8.73	12.70	10.32	5.56	18.25	126
パートタイム	男性	75.00	6.25	0.00	3.13	3.13	12.50	32
	女性	34.04	9.57	17.02	12.77	6.38	20.21	94
			28.57		37.14		34.29	35
無職	男性		37.50		12.50		50.00	8
	女性		25.00		42.86		32.14	28

図 9　結婚後の家事分担について合意しているか

Q20　結婚後の家事分担についてパートナーと合意していますか。



婚後もフルタイムで働く人はそのうち，73%（131 名）である。パートタイムに変わる人が 9%（17 名），退職する人が 9%（16 名）いる。現在パートタイムで働いている女性は 94 名（31%）いるが，結婚後はフルタイムに変わる人が 45%（41 名）パートタイムのままが 30%（28 名），退職が 6%（6 名）と回答している。また，現在無職の女性 28 名（9 %）のうち，結婚後はフルタイムで働くという人が 7 名（25%）いる。これらを合計すると，結婚後フルタイムで働くと考えている女性は 179 名であり，現在（結婚前）の 180 名と比べて，ほとんど変わらない結果になっている。この結果は，最近では，結婚はフルタイムで働く女性を減らす契機になっていないことを示唆している。[13]

結婚後の家事分担

結婚後の家事分担について合意しているかどうかを尋ねた。男性・女性ともに約 6 割が結婚後の家事分担に関して合意していると回答している（図 9）。話し合っていないという回答者の割合は 3 割を超えているが，合意していないは男女ともに 4 %以下であった。

同様の育児分担に関する質問を，出産予定者に対して行った（図 10）。「話し合っていない」は 19%で，結婚予定者の場合よりもかなり少ない。これは，出産予定のサンプルはすでに結婚しているので，カップルはより密接な関係にあり，対話を持つ機会も多いからであろう。「合意している」は 74%で，結婚予定者よりも多い。「合意していない」も若干多い。興味深いのは，「合意していない」という回答が男女でかなり違う点である。男性では，「合意して

[13] これに対し，出産は女性が離職する大きな契機となっている。大井（2004）によれば，2000 年時点で，「未婚・子供がいない女性は 93.3%が就業しているのに対し，既婚・子がいる女性は 22.9%しか就業していない。」

図 10　育児分担について合意しているか

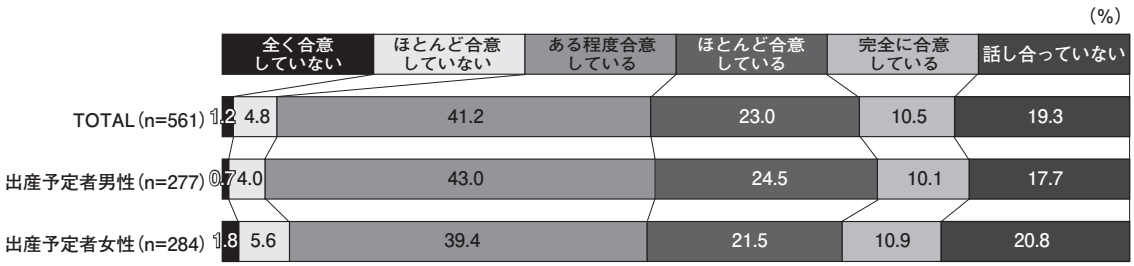
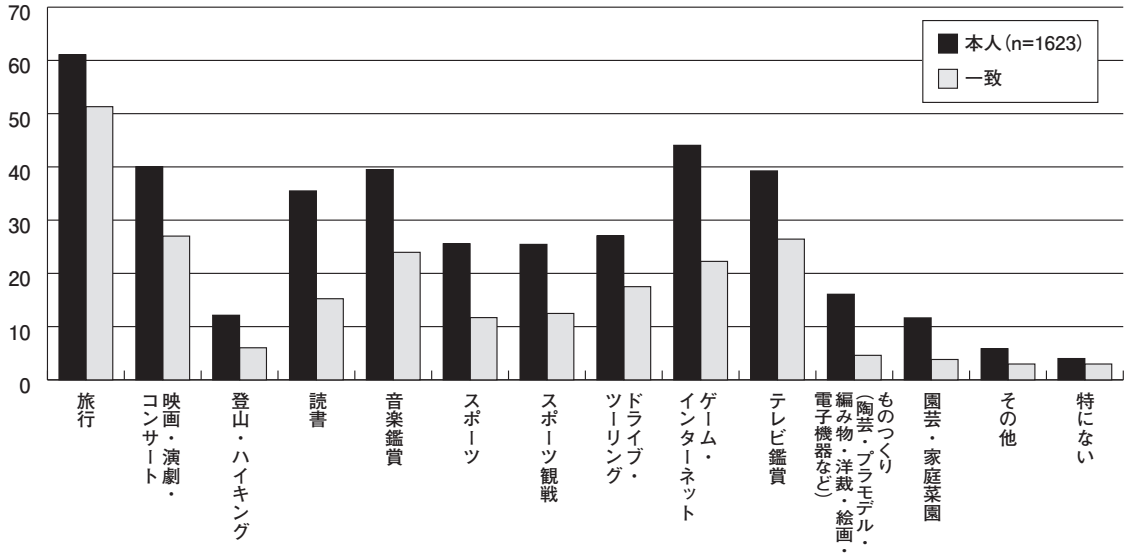


図 11　あなたの趣味は何ですか



注：左側の縦棒は，回答者のうち，趣味として挙げた人の割合（%，複数回答）。右側の縦棒は，本人とパートナーがともに趣味としてあげた組の割合。

いない」と思っている人は少ない（4.7 %）が，女性では 7.4 %にのぼる。すなわち，男性・女性で，「合意している」の認識が異なる。

3.5　趣味

どのような趣味が多いか

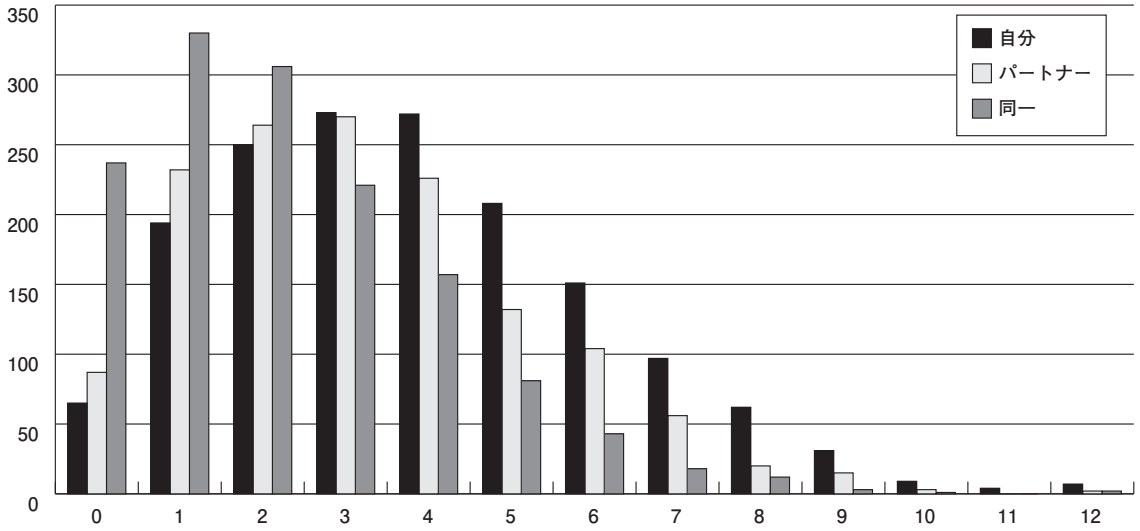
結婚調査と出産調査の全対象者（コントロール群を含む）に対して，「あなたとパートナーの趣味は何ですか」と尋ねた。[14]

自分についての結果は図 11 の左側の棒で示されている。パートナーについての結果はこれと（水準は若干違うが）ほとんど同じように変動していたので紙面を節約するため省略する。[15] 図には示していないが，男性と女性とで

[14] 結婚調査のコントロール群には，パートナーがいない人が多数おり，その人は，自分の趣味だけを答えている。

[15] パートナーの趣味としてあげられている数は，自分の趣味の数より，どの項目についても少なくなっていたが，これは，パートナーより自分についてよりよく知っているから，あるいは，自分は多趣味と回答したいといった心境が反映されている可能性が考えられる。

図 12　趣味が一致する数



は趣味にかなりの違いがみられた。

旅行を趣味にあげる回答者が最も多く，6 割以上にのぼる。映画・演劇・コンサート，音楽鑑賞，ゲーム・インターネット，テレビ鑑賞，読書がそれに次いで多く，約 4 割が趣味であると回答している。スポーツ，スポーツ観戦，ドライブ・ツーリングも，約 4 人に一人が趣味と回答している。

パートナーとの趣味の一致

自分とパートナーで同じ趣味をいくつ持っているかを調べた。その結果が図 12 の中の右端の縦棒で表示されている。同じ趣味を持たない（同じ趣味の数が 0）カップルは 237 組で，総数の 17%である。[16] 一致する趣味がひとつあるカップルは 330 組，同じく 2 つの趣味が一致するカップルは 306 組である。総じて，カップルは趣味を同じくする傾向が強いと言えよう。これに対し，趣味の数が 0 の「自分」の人数と，パートナーの人数がその左の列に示されている。2 つあるいは 3 つ，4 つの趣味をあげる人が最も多い。

趣味が一致するのはどのようなものが多いかは，先の図 11 に，右側の縦棒で示している。旅行が最大であり，映画等，テレビ鑑賞，音楽鑑賞，ゲーム等が，これに続く。

3.6　ビッグファイブ

アンケート調査では，「自分」と「パートナー」の性格について，10 個の特徴をあげ，それぞれ，「1=全く違うと思う」から「7=強くそう思う」の 7 段階で評価してもらっている。これらの質問は，心理学の領域でビッグファイブと呼ばれ，人間の性格を把握・記述するのにすぐれた指標として知られている。10 個の特徴とは，

1　活発で，外向的だと思う
2　他人に不満をもち，もめごとを起こしやすいと思う
3　しっかりしていて，自分に厳しいと思う
4　心配性で，うろたえやすいと思う
5　新しいことが好きで，変わった考えをもつと思う
6　ひかえめで，おとなしいと思う

[16] 二人とも無趣味のカップルは，「趣味が一致する」とみなしていない。

7　人に気をつかう，やさしい人間だと思う
8　だらしなく，うっかりしていると思う
9　冷静で，気分が安定していると思う
10　発想力に欠けた，平凡な人間だと思う

である。これらの特徴のうちで，結婚予定者（男女）や出産予定者（男女）がコントロール群と目立って異なる特徴があるかどうかを調べてみよう。

他人に不満をもち，もめごとを起こしやすいと思う

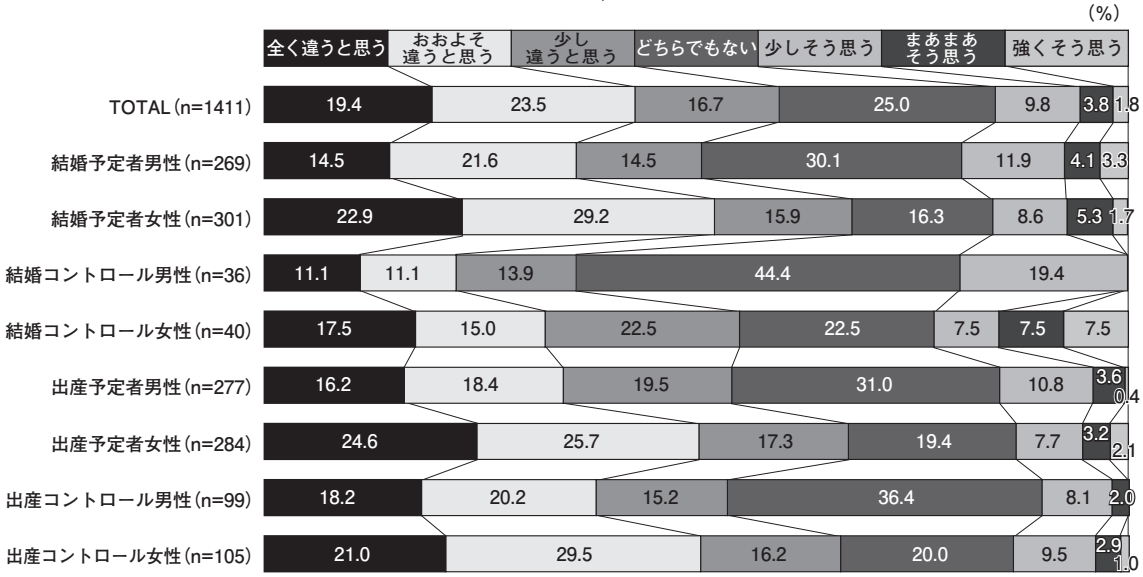
「他人に不満を持ち，もめごとを起こしやすいと思う」かどうかを，パートナーについて尋ねた結果を，図 13 に示す。「自分」について尋ねた結果は以下で述べるような特徴がみられないので割愛する。この問いに対する，「全く違うと思う」，「おおよそ違うと思う」，「少し違うと思う」という回答（以下，「違うと思う」と書く）に注目しよう。男性の結婚予定者も女性の結婚予定者も，それぞれのコントロール群と比較して，「違うと思う」と答えた割合が明確に多くなっている。すなわち，結婚予定者は男性・女性を問わず，パートナーを高く評価をしていると言える。しかし，出産予定者においては，このような傾向は明確でない。

しっかりしていて，自分に厳しいと思う

「しっかりしていて，自分に厳しいと思う」かどうかも，上の「他人に不満を持ち，もめごとを起こしやすいと思う」かどうかと同じ傾向を示す。すなわち，結婚・出産予定者とそれぞれのコントロール群を比較した時，「自分」についての評価では，大きな違いはないが，結婚予定者の「パートナーに対する評価」については明確な違いがある。「強くそう思う」，「まあまあそう思う」，「少しそう思う」をまとめたもの（「そう思う」と呼ぶ）を見ると，結婚予定者は男女を問わず，「そう思う」が多くなっている（図 14）。しかし，出産予定者に関しては，このような違いははっきりしない。

図 13　パートナーは他人に不満をもち，もめごとを起こしやすいと思う

Q24　以下のことについて，あなたのパートナーがどの程度あてはまるかについて，お気持ちに最も近いものをそれぞれひとつずつお答えください。他人に不満をもち，もめごとを起こしやすいと思う



人に気をつかう，やさしい人間だと思う

「人に気をつかう，やさしい人間だと思う」という評価も，これまであげた２つの項目と同様，結婚予定者は，パートナーに対して，「そ

図 14　パートナーは，しっかりしていて，自分に厳しいと思う

Q24　以下のことについて，あなたのパートナーがどの程度あてはまるかについて，お気持ちに最も近いものをそれぞれひとつずつお答えください。しっかりしていて，自分に厳しいと思う

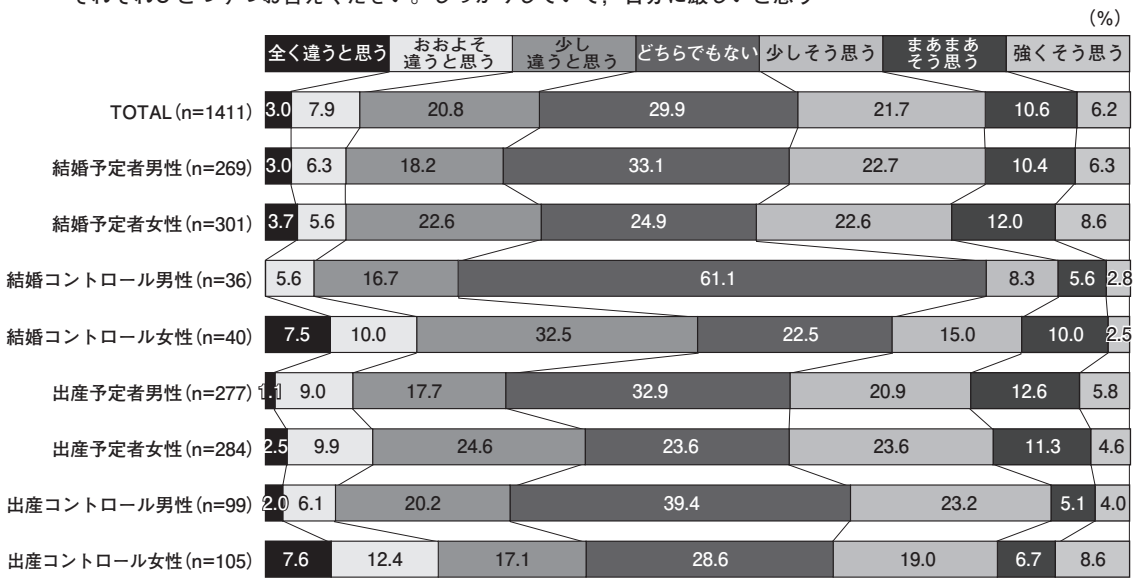


図 15　パートナーは，人に気をつかう，やさしい人間だと思う

Q24　以下のことについて，あなたのパートナーがどの程度あてはまるかについて，お気持ちに最も近いものをそれぞれひとつずつお答えください。人に気をつかう，やさしい人間だと思う

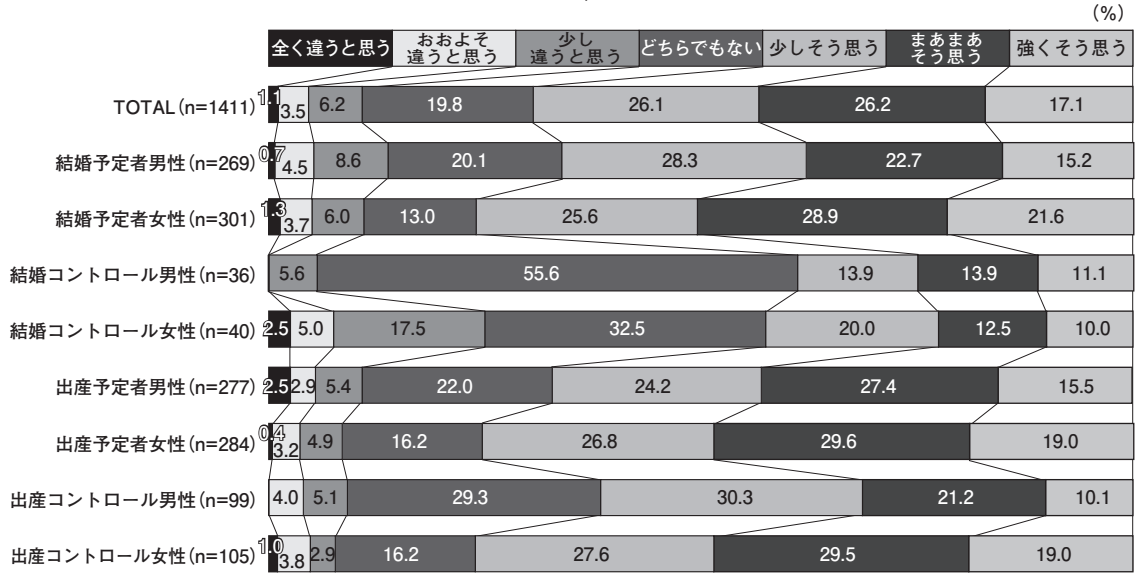
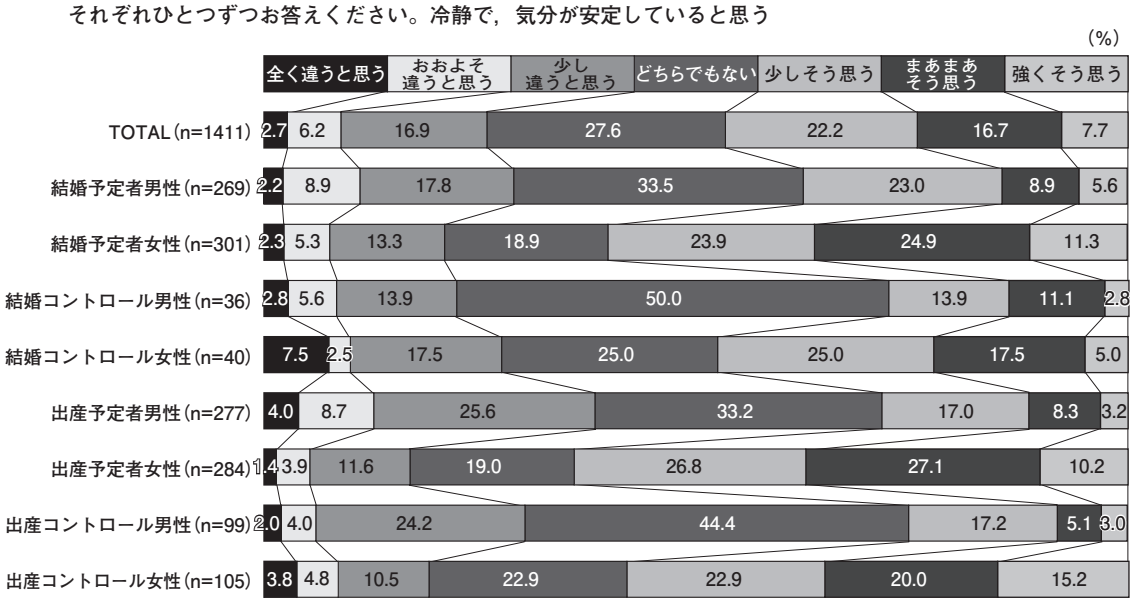


図 16　パートナーは，冷静で，気分が安定していると思う

Q24　以下のことについて，あなたのパートナーがどの程度あてはまるかについて，お気持ちに最も近いものを
それぞれひとつずつお答えください。冷静で，気分が安定していると思う



う思う」という評価が，コントロール群と比較して多い。出産予定者に関してはそのような傾向は明確でない（図 15）。

冷静で，気分が安定していると思う

「冷静で，気分が安定していると思う」という項目も，これまでの結果と似ている（図 16）。パートナーを評価する際には，結婚予定者は男性・女性を問わず，「そう思う」がコントロール群よりも多い。しかし，出産予定者については，このようなことは言えない。

以上の結果から明らかなことは，結婚・出産予定者とコントロール群で違いがみられるのは，前者の「パートナーに対する評価」が好意的であることである。しかも，出産予定者よりも，結婚予定者の方が，違いが明瞭である。[17]

3.7　気分，考え方，性格

アンケート調査では，気分，考え方，性格に関連して 27 項目の質問をしている。ここではそのうち，気分に関連した，次の 3 項目を取り上げてみてみよう。[18]

最近，ストレスを感じる
最近，憂鬱だ
最近，孤独を感じる

出産・結婚予定者は，希望も大きい半面，ストレスや不安も大きいであろうと思われるので，そこに焦点を当ててみる。回答は，「全く当てはまらない」，「どちらかというと当てはまらない」，「どちらともいえない」，「どちらかというとあてはまる」，「ぴったり当てはまる」の 5 段階である。ここでは，自分についてのみを尋ね，パートナーについては尋ねていない。

[17] 本稿では深く追究しないが，「自分」に対する評価と「パートナー」に対する評価を比較すると，「新しいことが好きで，変わった考えをもつと思う」と「心配性で，うろたえやすいと思う」の 2 項目で，明確な違いがみられた。すなわち，自分の方が，ユニークであり，かつ，うろたえやすい，と考えているようである。

[18] 気分に関連した質問項目としては，「最近，よく眠れない」もあるが，回答者グループ間で明確な違いがなかったので省略する。

図 17　最近，ストレスを感じる

Q25　あなたは，以下のことについてどの程度あてはまりますか。最近，ストレスを感じる

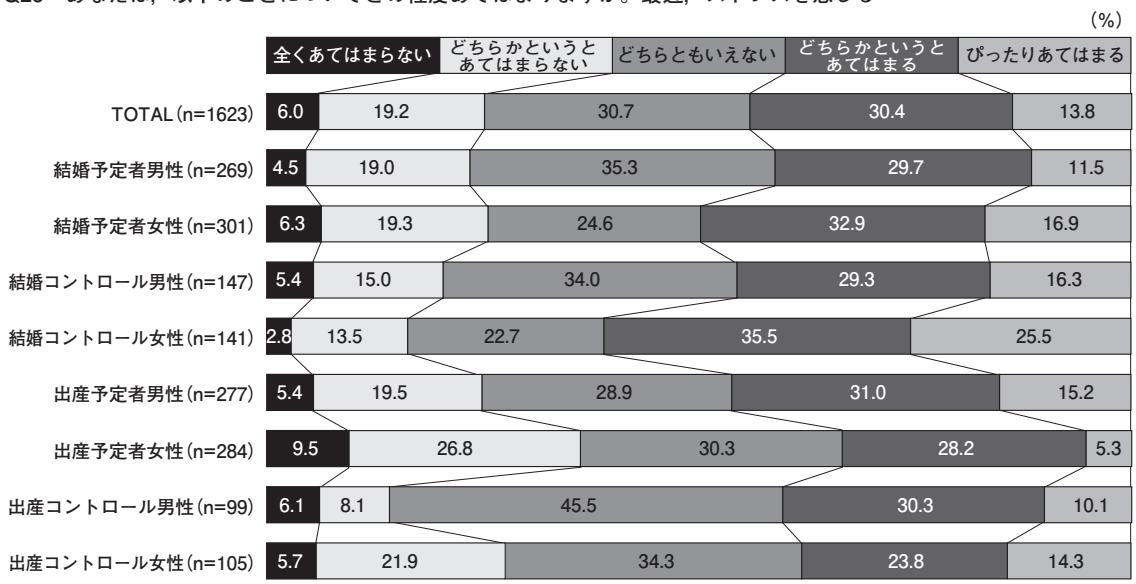
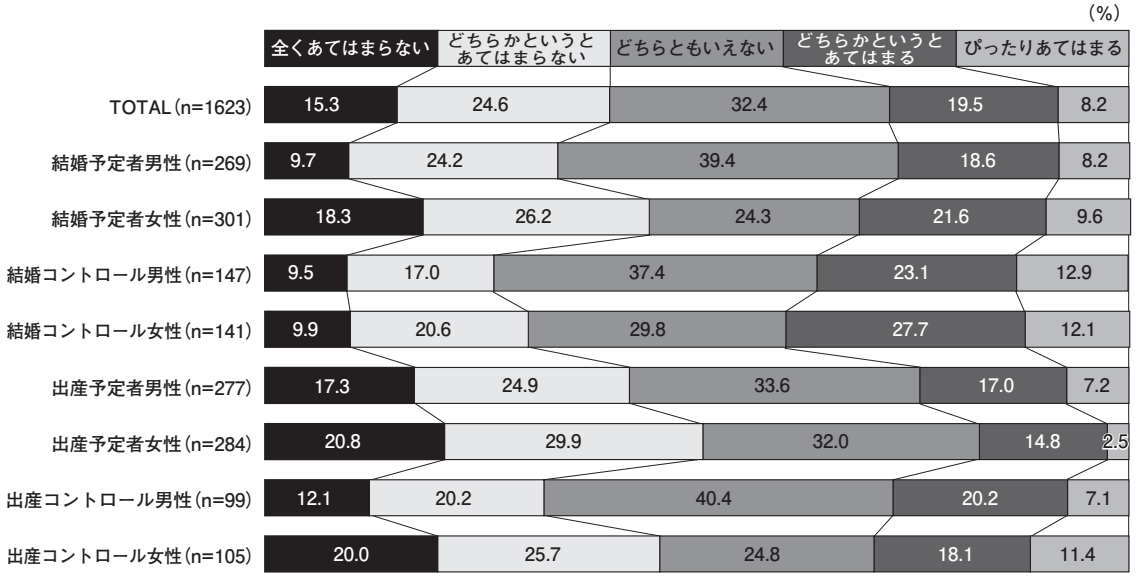


図 18　最近，憂鬱だ

Q25　あなたは，以下のことについてどの程度あてはまりますか。最近，憂鬱だ

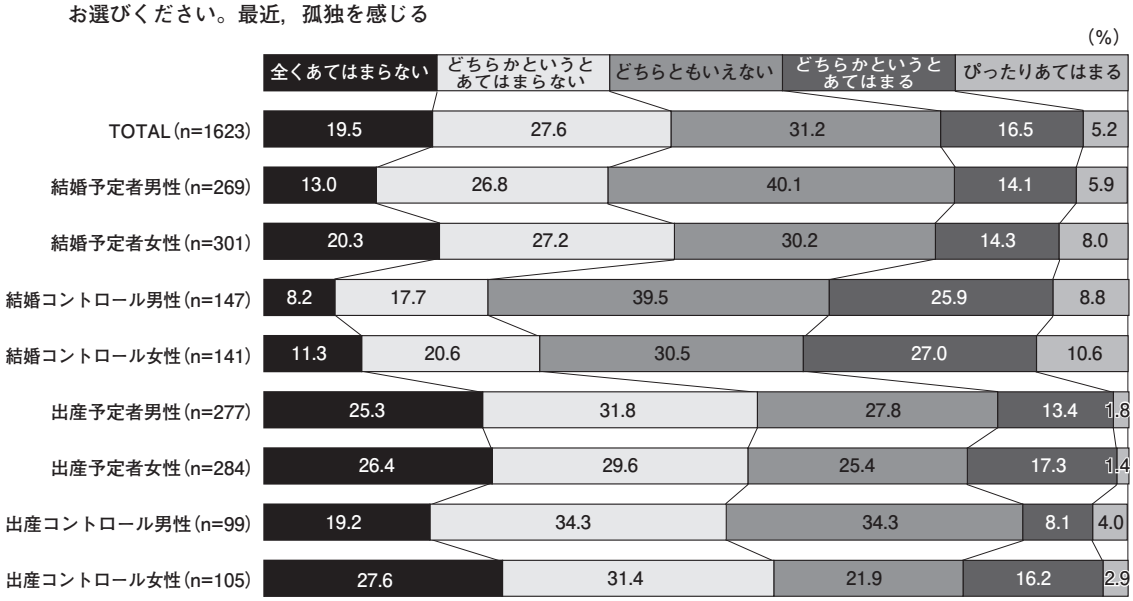


ストレス

「最近，ストレスを感じる」について，女性の結婚予定者は，コントロール群に比べて，「あてはまる」と答えた率が低い（図 17）。つまり，女性の結婚予定者はストレスを感じない傾向がある。男性の結婚予定者はコントロール群と明確に違わない。一方，女性の出産予定者は，コントロール群と比べ，「ぴったり当ては

図 19　最近，孤独を感じる

Q25　あなたは，以下のことについてどの程度あてはまりますか。お気持ちに最も近いものをそれぞれひとつずつお選びください。最近，孤独を感じる



まる」の率が低く，「全く当てはまらない」の率が高い。つまり，女性の出産予定者はストレスを感じない傾向がある。DiPietro et al. (2004) は，アメリカの妊娠中の女性を対象に調査を行い，もめごと (hassles) より精神的高揚 (uplifts) の方をよりしばしば強く感じていることを見出した。これは，われわれの結果と整合的である。

憂鬱

「最近，憂鬱だ」については，男性・女性とも結婚予定者は，コントロール群に比べて，「あてはまる」が少なく，「あてはまらない」が多い（図 18)。出産予定者についても同様である。この結果は，結婚・出産が生活満足度を高めているという，3.1 節の分析結果と整合的である。

孤独

「最近，孤独を感じる」についての結果は明瞭である。すなわち，男性・女性を問わず，結婚予定者はコントロール群に比べて，孤独を感じることが少ないことが明確に認められる（図 19)。

一方，出産予定者とコントロール群ではほとんど差がない。出産のコントロール群も既婚であるので，出産を予定していることは孤独感とはほとんど関係がないことを示している。ただし，われわれのサンプルは全員子供を持っていないので，この結果は，子供を持っている夫婦の孤独感がどう変わるかについては何も語っていないことに注意が必要である。

3.7　パートナーの身長と体重

アンケートでは，回答者とそのパートナーの身長と体重を尋ねている。[19] この結果をもとに，身長の高い人はやはり高い人をパートナーとして選ぶ傾向があるかどうかを確かめることができる。

表 7-1 には，回答者の身長，体重，BMI の

[19] ただし，パートナーについての数値は正確でない可能性がある。

表 7-1　回答者の身長，体重，BMI

	男性			女性		
	身長	体重	BMI	身長	体重	BMI
平均	171.84	67.61	22.88	158.43	50.74	20.22
サンプル数	1388	1383	1383	1388	1373	1373
国民栄養調査（30 歳代）	171.5	69.6	23.64	158.3	54.0	21.56

注：サンプルは，パートナーがいる人に限る。異常値と思われるいくつかのサンプルを除外している。

平均値を記載している。回答者の平均年齢は男性が 34.3 歳，女性が 31.9 歳である。表には，国民健康・栄養調査（厚生労働省）による日本人の 30 歳代の身長・体重の平均値も示している。われわれのサンプルは，身長については日本人の平均値とほぼ同一である。ただし，体重については，男女とも，過少の申告バイアスがあるかもしれない。

サンプルを男性と女性に分け，カップルを並べた系列を作り，身長，体重，BMIについて相関係数を計算した結果が表 7-2 に示されている。相関係数は，どれも 0.1 を若干上回り，背の高い人は高い人を，体重の多い人は多い人を，太り気味の人は太り気味の人を，パートナーとして選ぶ傾向があることが見て取れる。すなわち，体型については，似た者がカップルになる傾向がある。

表 7-2　カップルの身長，体重，BMIに関する相関

	身長	体重	BMI
相関	0.100	0.117	0.135

表 7-1 に示したように，男性の平均身長は女性を約 13cm 上回っている。一方，世の中には，背の高い男性を伴侶に選びたいと思っている女性が多いとも言われている。そこで，最後に，女性の方が背の高いカップルがどのくらいいるかを調べてみよう。その数と身長差の平均値が表 7-3 に示されている。女性の方が背の高いカップルは 31 組，全体の 2.2 %に過ぎない。これに対し，男性の方が背の高いカップルは 1335 組，全体の 96.2 %にのぼる。

この 2.2%という値が，女性が自分より背の高い男性をパートナーとして求める傾向があるためにもたらされたのかどうかを調べてみよう。そのためには，ランダムにカップルを作った時，身長が逆転するカップルが何組できるかを調べればよい。具体的には，われわれのカップルのデータにおいて，女性の順序はそのままとし，男性の順序をランダムに入れ替えて仮想的なカップルを作り，女性が男性より背が高い組が何組あるかを調べた。この手順を 1000 回繰り返した結果，女性の方が高い組の比率の平均値は 4.1 %（標準偏差は 0.4 %），比率の最小値は 2.67 %，最大値は 5.45%であった。95 % の信頼区間は[3.31 %, 4.97%]である。これらの結果は，実際に観察される 2.2%は，もし，ランダムにカップルが作られていた場合に比べると有意に小さいことを示している。すなわち，女性は自分より高い男性をパートナーに望む，もしくは男性は自分より低い女性をパートナーに望むという選好が存在するものと思われる。

表 7-3　女性の方が背が高いカップル

身長差	女性が高い	男性が高い
カップルの数	31	1335
割合（%）	2.23	96.18
身長差の平均（cm）	6.10	14.08

4. どのような人が，結婚・出産を決意するか：ロジット分析

2012年と2013年におこなった「詳細調査」では，結婚予定者（570名）と未婚で結婚予定のないコントロール群（288名），初めての出産予定者（561名）と既婚で子供を持たず出産予定のないコントロール群（204名），について，データを収集している。このデータを使って，結婚を予定している者としていない者の違い，出産を予定している者としていない者の違いを調べることができる。釜野（2008）は第13回出生動向基本調査のデータを用いて，「結婚意欲」を年齢，教育レベル，就業形態などに回帰する分析を行っている。本研究では，「結婚意欲」ではなく，実際に結婚を予定している者とそうでない者との違いを調べる点で，釜野（2008）と違っている。次節で説明するように，われわれの分析では，カップルの男女両方の年齢や教育，年収を説明変数としているが，釜野（2008）では，「結婚意欲」を表明している当人の属性だけを説明変数としている点でも違っている。

4.1　モデル

結婚については，結婚を予定している人を1，予定していない未婚の人を0とする2値変数を被説明変数として，ロジット回帰を行う。出産については，自分あるいはパートナーが妊娠している人を1，結婚しているが妊娠していない人を0とする2値変数を被説明変数として，ロジット回帰を行う。両方の回帰に共通した説明変数としては，次の変数を採用する。

女性の年齢，男性の年齢

女性の学歴，男性の学歴

女性の年収，男性の年収[20]

パートナーと同じ趣味を持つ＝1，持たない=0とするダミー変数

4.2　推定結果

モデルの推定結果は表8に示されている。結婚を決意するのに影響しているのは，まず，男性の年齢である。すなわち，結婚予定者の方が，男性の年齢が低い傾向がみられる。この結果は，直感と整合的でない。たまたま，コントロール群の男性の年齢が低かったなら，このような結果が得られそうである。しかし，サンプルの年齢の平均値は，結婚予定者の男性で33.2歳，男性コントロール群で33.6歳であり，ほとんど変わらないので，このような推測は成り立たない。女性の年齢は有意でない。ただし，女性の場合，平均年齢は結婚予定者で，28.9歳，コントロール群で，32.6歳と差がある。

女性の学歴は有意でないが，結婚予定者では男性の学歴が高いことが見て取れる。年収についても同様である。これらの結果は直感と整合的である。さらに，結婚予定者では，同じ趣味を持っている確率が高い。これは，趣味が同じ人が結婚する傾向があることを示唆している。ただし，パートナーになった結果，同じ趣味を

表8　結婚・出産の特徴：ロジット分析

	結婚		出産	
	係数	P値	係数	P値
男性の年齢	-0.049	0.050	-0.009	0.692
女性の年齢	0.007	0.805	-0.167	0.000
男性の学歴	0.138	0.061	0.076	0.129
女性の学歴	0.009	0.912	0.042	0.488
男性の年収	0.211	0.051	0.229	0.002
女性の年収	0.113	0.346	-0.044	0.473
趣味の一致	0.918	0.004	-0.277	0.322
定数	0.745	0.460	5.655	0.000
擬似決定係数	0.075		0.148	
観測数	587		692	

[20] 世帯収入，家などの固定資産，金融資産の変数を入れた推定も行ったが，収入，資産に関する変数が有意でなくなる傾向がみられた。これらの変数の多重共線性が問題である可能性を考慮し，ここでは，自分とパートナーの収入だけを入れた結果を紹介する。

持つようになったという逆の因果も否定できない。

出産については女性の年齢が影響している。すなわち，女性の年齢が高いほど出産予定のサンプルに入らない。一方，男性の年齢は影響しない。また，男性の年収が高いほど出産する傾向がみられる。「趣味の一致」は出産の決定には影響しない。

5. 結論

われわれは，結婚や出産が，幸福感や選好にどのような影響を与えるかを調査するために，結婚・出産予定者を抽出し，月次の調査を計画・実施している。それに先立ち，調査対象者の比較的安定的な選好や属性を調べるためにアンケート調査（「詳細調査」）を実施した。本論文は，この詳細調査の結果をもとに，結婚・出産予定者にどのような特徴が認められるかを調べた。主要な結果は次のようにまとめられる。

1. 生活満足度や幸福度については，結婚予定者はそうでない人（コントロール群）に比べて高い。出産予定者についても，結婚予定者ほどではないが，同様の傾向がある。
2. 結婚・出産によってどのくらい幸せになると予想するかの程度は 100 段階で結婚では 77，出産では 87 と極めて高い。その一方で，不安についても，それぞれ，48，56 と比較的高い値を示す。
3. 欲しい子供の人数は 2 人が圧倒的に多い。
4. 欲しい子供の人数に大きな影響を与える要因としては，「子育て費用がかかるから」が欲しい子供数が 2 人以下のグループでは最多であったが，3 人以上を希望するグループでは，「にぎやかな家庭が好きだから」が最多であり，欲しい人数によって，その数を希望する理由は異なる。
5. 結婚には，本人とパートナーの両親ともに賛成していることが多い。
6. 結婚予定者のうち，男性はフルタイムで働いている人が圧倒的に多く，結婚によってもそれは変わらない。女性はフルタイムで働いている人は 73% であるが，その比率は，結婚によってほとんど変化しない。
7. 結婚後の家事分担について合意している人は 57% 程度，出産後の育児分担について合意している人は 74 % 程度である。
8. 旅行を趣味とする人が最も多く，同じ趣味をもつカップルは多い（一致した趣味を持たないカップルは 17% に過ぎない）。
9. 結婚予定者は，コントロール群（未婚かつ結婚予定なし）に比べて，パートナーの性格に対して好意的な評価を示すことが多い。出産予定者については，コントロール群（既婚かつ妊娠していない）と比べて，明確な違いはない。
10. 結婚・出産予定者は，コントロール群と比べて，ストレスを感じておらず，憂鬱度も低い。また，結婚予定者はコントロール群と比べて，孤独を感じることが少ない（これは出産予定者には当てはまらない）。
11. カップルは，身長，体重，BMI について，相関係数が正（0.1 程度）である。すなわち，体型については似た者がカップルになる傾向がある。
12. 女性の方が背が高いカップルは全サンプルの 2.2 % であり，これは，ランダムに組み合わせて作ったカップルのうち女性の方が背が高いカップルの（1000 回の試行の）平均値である 4.1 % より，有意に低い。すなわち，女性は自分より高い男性をパートナーに望む，もしくは男性は自分より低い女性をパートナーに望むという選好が存在する。
13. 回帰分析によれば，女性の年齢が低いほど，男性の年収が高いほど，出産する傾向がある。男性の年齢が低いほど，男性の学歴が高いほど，男性の年収が高いほど，ま

た，一致した趣味を持つほど，結婚する傾向がある。

いうまでもなく，本論文はいろいろな問題をはらんでいる。第1の問題は，クロスセクションデータを用いているため，3.1節，3.2節と3.6節で分析したような主観的変数の比較にバイアスがあることが否定できないことである。パネルデータに基づく分析で，この問題を解決することが将来の課題である。第2の問題は，サンプル数が限られていることである。結婚予定者は570名，そのコントロール群は288名，出産予定者は561名，そのコントロールは204名である。そのため，サンプルを細かく分割した分析では信頼に足る結果を導くことが困難である。しかし，予定者とコントロールの比較，結婚予定者と出産予定者との比較，あるいは男女の比較などの分析には耐えられるサンプル数であると考える。

また，本稿では，アンケート調査結果全般にわたって，広範な分析をすることを主眼とした。特定のトピックスに関するより詳細な分析は，今後の課題としたい。

参照文献

Angeles, L.（2010）“Adaptation and Anticipation Effects to Life Events in the United Kingdom,” *SIRE Discussion Papers 2010-03*, Scottish Institute for Research in Economics（SIRE）.

Aassve, A., A. Goisis and M. Sironi（2012）“Happiness and Childbearing Across Europe,” *Social Indicator Research*, vol. 108, no. 1, pp. 65-86. doi: 10.1007/s11205-011-9866-x

Clark, A. E., E. Diener, Y. Georgellis and R. E. Lucas（2008）“Lags and Leads in Life Satisfaction: A Test of the Baseline Hypothesis,” *The Economic Journal*, vol. 118, pp. F222-F243.

Clark, A. E. and Y. Georgellis（2013）“Back to Baseline in Britain: Adaptation in the British Household Panel Survey,” *Economica*, vol. 80, pp. 496–512.

DiPietro J.A., M. M. Ghera, K. Costigan, and M. Hawkins（2004）“Measuring the Ups and Downs of Pregnancy Stress,” *Journal of Psychosomatic Obstetrics & Gynecology*, vol. 25, pp. 189–201.

Doss, B. D., G. K. Rhoades, S. M. Stanley, and H. J. Markman（2009）“The Effect of the Transition to Parenthood on Relationship Quality: An Eight-Year Prospective Study,” *Journal of Personality and Social Psychology*, vol. 96, no. 3, pp. 601–619. doi: 10.1037/a0013969

Easterlin, R. A.（2003）“Explaining Happiness,” *Proceedings of the National Academy of Sciences*, vol. 100, pp. 11176-11183.

Frey, B. S. and A. Stutzer（2005）”Testing theories of happiness,” in L. Bruni and P. L. Porta eds. *Economics and Happiness*, Oxford UP, pp. 116-146.

Glenn, N. D. and C. N. Weaver（1981）“The Contribution of Marital Happiness to Global Happiness,” *Journal of Marriage and Family*, vol. 43, pp. 161-168.

Holland-Benin, M. and B. Cable-Nenstedt（1985）“Happiness in Single- and Dual-earner Families; The Effects of Marital Happiness, Job Satisfaction, and Life Cycle,” *Journal of Marriage and Family*, vol. 47, pp. 975-984.

Kohler, H.-P., J. R. Behrman, and A. Skytthe（2005）“Partner + Children = Happiness? The Effects of Partnerships and Fertility on Happiness,” *Population and Development Review*, vol. 31, no. 3, pp. 407-445. doi: 10.1111/j.1728-4457.2005.00078.x

Lawson, D. M.（1998）, “Love Attitude and Marital Adjustment in the Family Life Cycle,” *Sociological Spectrum*, vol. 8, pp. 391-406.

Lucas, R.E., A.E. Clark, Y. Georgellis and E.

Diener（2003）“Reexamining Adaptation and the Set Point Model of Happiness: Reactions to Changes in Marital Status,” *Journal of Personality and Social Psychology*, vol. 84, no. 3, pp. 527-539.

Lucas, R. E. and A. E. Clark（2006）“Do People Really Adapt to Marriage?” *Journal of Happiness Studies*, vol. 7, pp. 405-426.

Parr, N.（2010）“Satisfaction with Life as an Antecedent of Fertility: Partner + Happiness = Children?” *Demographic Research*, vol. 22, no. 21, pp. 635-662.

Stutzer, A. and B. S. Frey（2006）“Does Marriage Make People Happy, or Do Happy People Get Married?” *Journal of Socio-Economics*. vol. 35, pp. 326-347.

Tsang, L. L. W., C. D. H. Harvey, K. A. Duncan, and R. Sommer（2003）“The Effects of Children, Dual Earner Status, Sex Role Traditionalism, and Marital Structure on Marital Happiness over Time,” *Journal of Family and Economic*, vol. 24, no. 1, pp. 5-26.

Twenge J. M., W. K. Campbell, C. A. Foster（2003）“Parenthood and Marital Satisfaction: A Meta-analytic Review,” *Journal of Marriage and Family*, vol. 65, pp. 574-583.

Yap, S. C. Y., I. Anusic, R. E. Lucas（2012）“Does Personality Moderate Reaction and Adaptation to Major Life Events? Evidence from the British Household Panel Survey,” *Journal of Research in Personality*, published online.

Zimmermann, A. C. and R. A. Easterlin（2006）“Happily Ever After? Cohabitation, Marriage, Divorce, and Happiness in Germany,” *Population and Development Review*, vol. 32, no. 3, pp. 511-528.

色川卓男（1999）「結婚・出産・離婚で女性の〈生活満足度〉はどう変わるか――生活全般満足度と生活程度のパネル分析――」樋口美雄・岩田正美編『パネルデータから見た現代女性：結婚・出産・就業・消費・貯蓄』第7章，東洋経済新報社，193-223頁。

大井方子（2004）「バブル崩壊前後の出産・子育ての世代間差異」樋口美雄・太田清編『女性たちの平成不況』第4章，日本経済新聞社，117-152頁。

大竹文雄（2004）「失業と幸福度」『日本労働協会雑誌』第528号，59-68頁。

釜野さおり（2008）「身近な人の結婚のとらえ方と結婚・子育てとの接触状況――結婚観と結婚意欲に関する分析――」『人口問題研究』第64巻 第2号，54-57頁（特集：日本の結婚と出生――第13回出生動向基本調査の結果から――）。

坂口尚文（2004）「結婚，出産，離婚と所得変化」樋口美雄・太田清編『女性たちの平成不況』第5章，日本経済新聞社，153-168頁。

筒井義郎・大竹文雄・池田新介（2009）「なぜあなたは不幸なのか」『大阪大学経済学』第58巻 第4号，20-57頁。

樋口美雄・萩原里紗（2011）「ライフイベントと女性の生活満足度・幸福度の変化およびその要因――「消費生活に関するパネル調査」を使用した実証分析――」，KEIO/KYOTO GLOBAL COE DISCUSSION PAPER SERIES DP2011-016。

樋口美雄・深堀遼太郎（2013）「女性の幸福度・満足度は出産行動に影響を与えるのか――「消費生活に関するパネル調査」を用いた第1子・第2子の出産行動の分析」，『家計経済研究』，第98巻，70-83頁。

守泉理恵（2008）「日本における子どもの性別選好：その推移と出生意欲との関連」『人口問題研究』第64巻 第1号，1-20頁（特集：日本の結婚と出生――第13回出生動向基本調査の結果から――）。

【付録】「詳細調査」

あなたご自身に関するアンケート

Q1. 生まれてくる子供の性別をお答えください。

- ❍ 男の子
- ❍ 女の子
- ❍ わからない

Q2. あなたは生まれてくる子どもの性別に希望がありましたか

- ❍ 男の子を望んでいた
- ❍ 女の子を望んでいた
- ❍ どちらでもよかった

Q3. 既にお子さんをおもちですか（いらっしゃらない場合は0とご記入ください）。

男の子（　人）
女の子（　人）

Q4. 全部で何人子どもがほしいですか。

子どもはほしくない

- ❍ 1人
- ❍ 2人
- ❍ 3人
- ❍ 4人
- ❍ 5人以上

Q5. その人数を希望するのはなぜですか。（回答はいくつでも）

- ❑ 教育費など子育て費用がかかるから
- ❑ 仕事や趣味との両立が難しいから
- ❑ 子どもが嫌いだから
- ❑ 家が狭いから
- ❑ 育児が大変だから
- ❑ 子育てに自信がないから
- ❑ 健康上の理由
- ❑ 子どもが好きだから
- ❑ 賑やかな家庭が好きだから
- ❑ 自分が一人っ子だったから
- ❑ 自分の兄弟が多かったから
- ❑ その他　具体的に:＿＿＿＿＿
- ❑ どれも当てはまらない

Q6. あなたは今回子どもが生まれることによって今よりどのくらい幸せになると思いますか。

「非常に不幸になる」を0点、「変わらない」を50点、「非常に幸福になる」を100点として、
あなたの幸福度は何点ぐらい変化すると思いますか。棒の上で、相当する点をクリックしてください。

Q7. あなたは今回の出産に関して不安がありますか。「まったくない」を0%、「非常に不安がある」を100%として、あなたの不安度に相当する割合を棒の上でクリックしてください。

Q8. 育児分担についてパートナーと合意していますか。

- ❍ 完全に合意している
- ❍ ほとんど合意している
- ❍ ある程度合意している
- ❍ ほとんど合意していない
- ❍ 全く合意していない
- ❍ 話し合っていない

Q9. あなたが利用している（もしくは、利用しようと思っている）産科と小児科には、現在住んでいるところからどれぐらいの時間で行けますか。

産科　通院にかかる時間（____時間____分）
- ❑ わからない／決めていない

小児科　通院にかかる時間（____時間____分）
- ❑ わからない／決めていない

Q10. 今のパートナーとはどこで知り合いましたか。

- ❍ 学校
- ❍ 職場
- ❍ 取引先など仕事を通じて
- ❍ お見合い
- ❍ 合コンで
- ❍ 結婚相談所・紹介所
- ❍ ネット上
- ❍ お見合いパーティ
- ❍ 友人、知人を通じて
- ❍ その他　具体的に:_____

Q11. 結婚の約束をしたのはいつですか。

____年____ヶ月前

Q12. パートナーを両親に紹介したのはいつですか。

____年____ヶ月前
- ❑ まだしていない

Q13. 同居を始めたのはいつですか。

____年____ヶ月前

Q14. 結婚にご両親は賛成ですか。

	大反対	どちらかというと反対	どちらでもない	どちらかというと賛成	大賛成	まだ結婚することを知らない	該当する人はいない
あなたの父親	○	○	○	○	○	○	○
あなたの母親	○	○	○	○	○	○	○
パートナーの父親	○	○	○	○	○	○	○
パートナーの母親	○	○	○	○	○	○	○

Q15. 結婚披露宴は行う予定ですか。

- ❍ しない
- ❍ 招待して行う ____人
- ❍ 会費制で行う ____人
- ❍ 未定

Q16. あなたは結婚することによって今よりどのくらい幸せになると思いますか。

「大変不幸になる」を0点、「変わらない」を50点、「大変幸福になる」を100点として、あなたの幸福度は何点ぐらい変化すると思いますか。棒の上で、相当する点をクリックしてください。

Q17. あなたは今回の結婚に関して不安がありますか。

「まったくない」を0%、「非常に不安がある」を100%として、あなたの不安度に相当する割合を棒の上でクリックしてください。

Q18. 現在あなたは週何時間程度勤務していますか。勤務していない方は0とご記入ください。

週_____時間程度

Q19. あなたの結婚後の働き方について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- ❍ フルタイム（同じ会社）で働く予定
- ❍ フルタイム（他社）で働く予定
- ❍ パート（同じ会社）で働く予定
- ❍ パート（他社）で働く予定
- ❍ 退職する予定
- ❍ まだ決めていない

Q20. 結婚後の家事分担についてパートナーと合意していますか。

- ❍ 合意している
- ❍ 合意していない
- ❍ 話し合っていない

Q21. あなたとパートナーの趣味は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

	あなた	パートナー
旅行	□	□
映画・演劇・コンサート	□	□
登山・ハイキング	□	□
読書	□	□
音楽鑑賞	□	□
スポーツ	□	□
スポーツ観戦	□	□
ドライブ・ツーリング	□	□
ゲーム・インターネット	□	□
テレビ鑑賞	□	□
ものつくり＜陶芸・プラモデル・編み物・洋裁・絵画・電子機器など＞	□	□
園芸・家庭菜園	□	□
その他＜具体的にご記入ください＞	_____	_____
特にない	□	□

Q22. あなたやパートナーは、**休日**の余暇を誰と何時間ぐらい過ごしますか。
それぞれの項目に、1日あたり平均的に費やす時間を記入してください（**睡眠時間は除く**）。
該当のない項目は「0」を記入してください。

	あなた	パートナー
ひとりで	____時間____分	____時間____分
子どもと一緒に	____時間____分	____時間____分
パートナーと一緒に	____時間____分	____時間____分
自分の友人と一緒に	____時間____分	____時間____分
パートナーや友人と一緒に	____時間____分	____時間____分
親などを含む家族と一緒に	____時間____分	____時間____分
親などを含む家族や友人と一緒に	____時間____分	____時間____分

Q23. 以下のことについて、**あなた自身**がどの程度あてはまるかについて、お気持ちに最も近いものをそれぞれひとつずつお答えください。

文章全体を総合的に見て、自分にどれだけあてはまるかを評価してください。

	全く違うと思う	おおよそ違うと思う	少し違うと思う	どちらでもない	少しそう思う	まあまあそう思う	強くそう思う
活発で，外向的だと思う	○	○	○	○	○	○	○
他人に不満をもち，もめごとを起こしやすいと思う	○	○	○	○	○	○	○
しっかりしていて，自分に厳しいと思う	○	○	○	○	○	○	○
心配性で，うろたえやすいと思う	○	○	○	○	○	○	○
新しいことが好きで，変わった考えをもつと思う	○	○	○	○	○	○	○
ひかえめで，おとなしいと思う	○	○	○	○	○	○	○
人に気をつかう，やさしい人間だと思う	○	○	○	○	○	○	○
だらしなく，うっかりしていると思う	○	○	○	○	○	○	○
冷静で，気分が安定していると思う	○	○	○	○	○	○	○
発想力に欠けた，平凡な人間だと思う	○	○	○	○	○	○	○

Q24. 以下のことについて、**あなたのパートナー**がどの程度あてはまるかについて、お気持ちに最も近いものをそれぞれひとつずつお答えください。

文章全体を総合的に見て、自分にどれだけあてはまるかを評価してください。

	全く違うと思う	おおよそ違うと思う	少し違うと思う	どちらでもない	少しそう思う	まあまあそう思う	強くそう思う
活発で，外向的だと思う	○	○	○	○	○	○	○
他人に不満をもち，もめごとを起こしやすいと思う	○	○	○	○	○	○	○
しっかりしていて，自分に厳しいと思う	○	○	○	○	○	○	○
心配性で，うろたえやすいと思う	○	○	○	○	○	○	○
新しいことが好きで，変わった考えをもつと思う	○	○	○	○	○	○	○
ひかえめで，おとなしいと思う	○	○	○	○	○	○	○
人に気をつかう，やさしい人間だと思う	○	○	○	○	○	○	○
だらしなく，うっかりしていると思う	○	○	○	○	○	○	○
冷静で，気分が安定していると思う	○	○	○	○	○	○	○
発想力に欠けた，平凡な人間だと思う	○	○	○	○	○	○	○

Q25. あなたは、以下のことについてどの程度あてはまりますか。お気持ちに最も近いものをそれぞれひとつずつお選びください。

	全くあてはまらない	あてはまらないどちらかというと	どちらともいえない	あてはまるどちらかというと	ぴったりあてはまる
日頃の生活の中で充実感を感じている	1	2	3	4	5
お金を借りることに抵抗感がない	1	2	3	4	5
現在の生活に精一杯で、ほとんど貯蓄ができない	1	2	3	4	5
計画を立てても、ずるずると先延ばししてしまう	1	2	3	4	5
ほしいものがあるとがまんできずに買ってしまう	1	2	3	4	5
いつも計画を立てて行動する	1	2	3	4	5
明日に伸ばしても大丈夫な仕事は明日する	1	2	3	4	5
健康上の不安を感じている	1	2	3	4	5
宗教を熱心に信仰している	1	2	3	4	5
最近、ストレスを感じる	1	2	3	4	5
最近、憂鬱だ	1	2	3	4	5
最近、よく眠れない	1	2	3	4	5
最近、孤独を感じる	1	2	3	4	5
周りの人と同じような行動をとっていると安心だ	1	2	3	4	5
問題に直面した時、つい感情的に行動してしまう	1	2	3	4	5
列で並んでいるところに割り込むことは絶対にしない	1	2	3	4	5
約束したことは必ず守る	1	2	3	4	5
決められた時間や締め切りには遅れない	1	2	3	4	5
頼みごとを聞いてもらえたらお返しする	1	2	3	4	5
ひどく不当な扱いを受けたら、私もやり返す	1	2	3	4	5
知らない人とも社交的な会話を楽しむことができる	1	2	3	4	5
他人が話をしているときに、なかなか口をはさむことができない	1	2	3	4	5
何かをするときには、一人でするよりも他の人と一緒にする方が好きだ	1	2	3	4	5
新しい友人を作ることはむずかしい	1	2	3	4	5
相手の顔を見れば、その人が考えていることや感じていることがわかる	1	2	3	4	5
先のことは不確実だから、考えても無駄だと思う	1	2	3	4	5
人生の成功において最も大切なのは運やコネよりも努力であると思う	1	2	3	4	5

Q26. あなたは、生活面に関する以下のことについて、どれくらい満足していますか。
お気持ちに最も近いものをそれぞれひとつずつお選びください。

	とても満足	少し満足	どちらでもない	少し不満足	とても不満足	
生活全般	○	○	○	○	○	
住んでいる地域	○	○	○	○	○	
余暇の過ごし方	○	○	○	○	○	
現在の家計の状態	○	○	○	○	○	
友人関係	○	○	○	○	○	
仕事	○	○	○	○	○	○ 仕事はしていない
パートナーとの関係	○	○	○	○	○	○ パートナー以外の家族はいない

Q27. あなたとあなたのパートナーの身長と体重をご記入ください。(小数点以下は四捨五入)
現在妊娠中の方は、妊娠直前の体重もお書きください。

	あなた	パートナー
身長	cm	cm
現在の体重	kg	kg
妊娠直前の体重	kg	kg

Q28. 現在のあなたとパートナーの働き方はどの程度ですか。

	あなた	パートナー
これ以上は働けないほど精一杯働いている	○	○
精一杯働いている	○	○
ゆとりがない状態で働いている	○	○
少しはゆとりをもって働いている	○	○
かなりゆとりをもって働いている	○	○

Q29. あなたとパートナーの**家事時間**は一日あたり平均どのくらいですか。平日と休日でそれぞれお答えください。

あなた			パートナー		
平日	時間	分	平日	時間	分
休日	時間	分	休日	時間	分

Q30. あなたとパートナーの**通勤時間**はどのくらいですか。

あなた	時間	分	□ 働いていない
パートナー	時間	分	□ 働いていない

Q31. あなたの性別をお答えください。

- ❍ 男性
- ❍ 女性

Q32. あなたとパートナーの年齢をお答えください。

あなた　＿＿＿才

パートナー　＿＿＿才

Q33. あなたは現在、何人お子さんがおられますか。お子さんがおられない方は0と記入してください。

＿＿＿＿人

Q34. 現在あなたが同居しているご家族の家族形態は、次のどれにあたりますか。

- ❍ 単身
- ❍ 自分と親
- ❍ 自分と親と兄弟姉妹
- ❍ 自分と兄弟姉妹
- ❍ 自分とパートナー
- ❍ 自分とパートナーと子ども
- ❍ 自分と子ども
- ❍ 自分とパートナーと子どもと親
- ❍ 自分とパートナーと子どもと親と兄弟姉妹
- ❍ その他　具体的に:＿＿＿＿＿＿＿＿

Q35. あなたとパートナーと、それぞれのご両親が最後に卒業された学校をお答えください。
在学中の方は、現在在学している学校をお答えください。

	あなた	パートナー	あなたの父親	あなたの母親	パートナーの父親	パートナーの母親
小中学校 卒業 （尋常小学校、高等小学校を含む）	○	○	○	○	○	○
高等学校 中退 （旧制中学校、女学校、実業学校、師範学校を含む）	○	○	○	○	○	○
高等学校 卒業 （旧制中学校、女学校、実業学校、師範学校を含む） （卒業見込みを含む）	○	○	○	○	○	○
短期大学 中退 （高専等を含む）	○	○	○	○	○	○
短期大学 卒業 （高専等を含む）（卒業見込みを含む）	○	○	○	○	○	○
大学 中退 （旧制高校、旧制高等専門学校を含む）	○	○	○	○	○	○
大学 卒業 （旧制高校、旧制高等専門学校を含む） （卒業見込みを含む）	○	○	○	○	○	○
大学院修士課程 中退	○	○	○	○	○	○
大学院修士課程 修了 （卒業見込みを含む）	○	○	○	○	○	○
大学院博士課程 中退	○	○	○	○	○	○
大学院博士課程 修了 （卒業見込みを含む）	○	○	○	○	○	○
わからない・答えたくない	○	○	○	○	○	○

Q36. あなたとパートナーのご両親の生まれ年は何年ですか。

あなたの父親	19（　　）年
あなたの母親	19（　　）年
パートナーの父親	19（　　）年
パートナーの母親	19（　　）年

Q37. あなたとパートナーのご両親はご在命（ご健在）ですか。

	健在	死亡
あなたの父親	○	○
あなたの母親	○	○
パートナーの父親	○	○
パートナーの母親	○	○

Q38. あなたが 3 歳、7 歳、15 歳の時、あなたの**母親**は働いていましたか。
あてはまるものを選びお答えください。また、パートナーの**母親**についても同様にお答えください。

	あなた			パートナー		
	3歳	7歳	15歳	3歳	7歳	15歳
フルタイムで勤めていた（会社・官公庁等）	○	○	○	○	○	○
フルタイムで働いていた（自営業）	○	○	○	○	○	○
パートタイムで勤めていた（会社・官公庁等）	○	○	○	○	○	○
パートタイムで働いていた（自営業）	○	○	○	○	○	○
勤めても働いてもいなかった	○	○	○	○	○	○
その時母親は居なかった	○	○	○	○	○	○

Q39. 「15歳の時のあなたの生活水準」はどの程度だとお考えですか。「もっとも貧しい」を0点、「もっとも豊か」を100点、として、あなたの生活水準は何点くらいになると思いますか。

Q40. あなたとパートナーの仕事内容は次のどれにあたりますか。最も近いものをそれぞれひとつずつお選びください。

会社員・派遣社員といった職業にかかわらず、仕事の内容であてはまるものをお選びください。

	あなた	パートナー
事務職 （一般・営業職など）	○	○
販売職 （小売店主、販売店員、外交員など）	○	○
管理職 （課長以上の公務員又は会社員、 会社役員など）	○	○
専門的・技術的職業 （教員、医師、技術者、作家など）	○	○
サービス職 （理美容師、ホールスタッフ・店員、 タクシー運転手、保安関係従業員など）	○	○
現業職 （大工、修理工、生産工程作業員など）	○	○
農林漁業	○	○
主婦・主夫 （パートタイム従業者）	○	○
主婦・主夫 （無職の）	○	○
学生	○	○
引退 （主婦・主夫を除く）	○	○
失業 （主婦・主夫を除く）	○	○
その他	_____	_____

Q41. あなたの勤務形態をお答えください。

複数の仕事に就いている場合は、勤務時間が長い方についてお答えください。

- ❍ 会社員・団体職員
- ❍ 公務員
- ❍ 会社経営者・役員
- ❍ 自営業主
- ❍ 家族従業員（自営業の）
- ❍ 派遣社員
- ❍ 契約社員・嘱託社員
- ❍ パート
- ❍ アルバイト
- ❍ その他　具体的に:＿＿＿＿＿＿

Q42. あなたの勤め先の従業員数はおよそ何人ですか。本社・支社・支店・営業所・工場など全てを含めたおよその人数をお答えください。**官公庁にお勤めの方は「官公庁」を選んでください。**

- ❍ 1～5 人
- ❍ 6～29 人
- ❍ 30～99 人
- ❍ 100～299 人
- ❍ 300～499 人
- ❍ 500～999 人
- ❍ 1,000～4,999 人
- ❍ 5,000 人以上
- ❍ 官公庁
- ❍ 分からない

Q43. あなたとパートナーの **2011 年のボーナスを含めた税込み総収入（事業所得を含む）**は、およそいくらでしたか。あてはまるものを 1 つお答えください。

学生の方は、アルバイト収入、実家からの仕送り、奨学金等を合計した額をお答えください。

	あなた	パートナー
なし	○	○
100 万円未満	○	○
100～200 万円未満	○	○
200～400 万円未満	○	○
400～600 万円未満	○	○
600～800 万円未満	○	○
800～1,000 万円未満	○	○
1,000～1,200 万円未満	○	○
1,200～1,400 万円未満	○	○
1,400 万円以上	○	○

Q44. あなたの**世帯全体の 2011 年のボーナスを含めた税込総収入（事業所得を含む）**は、およそいくらでしたか。

- ❍ 100 万円未満
- ❍ 100～200 万円未満
- ❍ 200～400 万円未満
- ❍ 400～600 万円未満
- ❍ 600～800 万円未満
- ❍ 800～1,000 万円未満
- ❍ 1,000～1,200 万円未満
- ❍ 1,200～1,400 万円未満
- ❍ 1,400～1,600 万円未満
- ❍ 1,600～1,800 万円未満
- ❍ 1,800～2,000 万円未満
- ❍ 2,000 万円以上

Q45. あなたの**世帯全体が所有している住宅、土地などの資産**は、**現在の評価額**でどれくらいになりますか。
学生の方はご実家の住宅・土地資産についてお答えください。

- ❍ 所有していない
- ❍ 500 万円未満
- ❍ 500～1,000 万円未満
- ❍ 1,000～1,500 万円未満
- ❍ 1,500～2,000 万円未満
- ❍ 2,000～3,000 万円未満
- ❍ 3,000～4,000 万円未満
- ❍ 4,000～5,000 万円未満
- ❍ 5,000 万円～1億円未満
- ❍ 1億円以上
- ❍ わからない
- ❍ 答えたくない

Q46. あなたの**世帯全体の金融資産残高（預貯金・株・保険等）**はどれくらいになりますか。
学生の方はご実家の金融資産残高をお答えください。

- ❍ 250 万円未満
- ❍ 250～500 万円未満
- ❍ 500～750 万円未満
- ❍ 750～1,000 万円未満
- ❍ 1,000～1,500 万円未満
- ❍ 1,500～2,000 万円未満
- ❍ 2,000～3,000 万円未満
- ❍ 3,000 万円～5,000 万円未満
- ❍ 5,000 万円～1億円未満
- ❍ 1 億円以上
- ❍ わからない
- ❍ 答えたくない

Making up one's mind to marry or have children: Results of a questionnaire survey in Japan

Yoshiro Tsutsui, Akiko Kamesaka, Oleksandr Movshuk and Sayuri Shiraishi

This paper is based on the results of a survey that asked men and women about their plans regarding marriage and childbirth. We examine the characteristics of the survey respondents, and find the following: 1) Those who planned to get married reported higher levels of both happiness and life satisfaction than a control group of respondents who did not plan to get married, and those who are expecting children reported greater happiness and life satisfaction than a control group of married people who did not plan to have children. 2) The overwhelming majority of men surveyed were employed full-time, and employment status did not vary with marriage plans. Similarly, a substantial majority (73%) of women surveyed were employed full-time, and their employment status also did not vary much according to marriage plans. 3) Compared to the control group, those who planned to get married reported favorable evaluations of their partners' personal characteristics. However, no such difference was observed with regards to childbirth. 4) Those who planned to get married and those who planned to have children reported lower levels of stress and depression than the control group. Those who planned to get married also reported feeling less isolated than those in the control group, but this difference was not observed in those who are expecting children. 5) There was a tendency for couples to have similar body types. 6) In couples expecting childbirth, the women tended to be younger and the men tended to earn higher salaries. In couples planning marriage, men tended to be younger, to have higher education levels, and to earn more, while couples also tended to report enjoying similar hobbies and interests. These trends were all very pronounced.

JEL classification number: I31
Keywords: marriage, child birth, well-being, questionnaire survey, Japan